資料１

日本調査統計分析レポート

（2019 年 7 月 26 日現在）

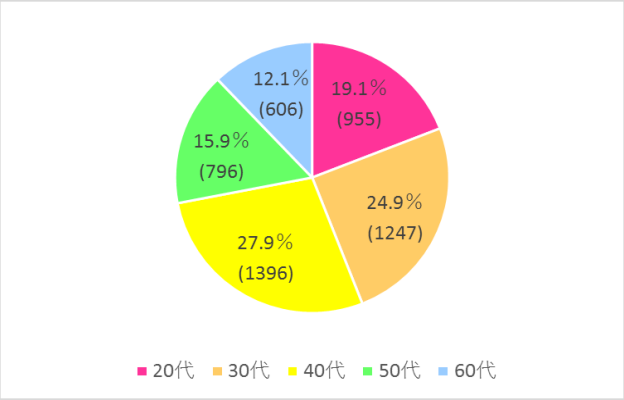
I. データの概要

- サンプル条件（男性、年齢 20 歳～69 歳、東京・東北・北陸・九州・沖縄在住）
- サンプル数：全体 5,000 名（東京 1,000 名、東北 1,000 名、北陸 1,000 名、九州 1,000 名、沖縄 1,000 名）
- 委託先：株式会社インテージ
- インテージにモニター登録をした方々に対して WEB 調査を実施
- 調査年月日：2018 年 3 月
- 統計分析手法：記述統計（分散分析・クロス表・相関分析）、共分散構造分析

II. データの属性

サンプル全体の平均年齢は 42.5 歳で、東京は 41.3 歳、東北は 41.2 歳、北陸は 43.3 歳、九州は 41.2 歳、沖縄は 45.3 歳で、沖縄の平均年齢が最も高い。また、図 1 にあるように、全体の約 44%が 20 代と 30 代であるが、もっとも多かったのは 40 代の 27.9%である。

図 1　年代の分布（N=5000）



最終学歴は 47.2%が 4 年制大学で最も多い。次いで多いのが高校であった（図 2）。また、年収は「0～129 万」から「1600 万以上」の 6 項目で回答してもらったが、各項目の中央値に置き換えて平均値をみた結果、全体の平均値は 410 万程度で、東京在住男性が 501 万で最も高く、東北が 350 万で最も低かった（表 1）。年収の全体分布をみると（図 3）、44.7%が 349 万以下であるが、最も多かったのが 30.4%の 150 万～649 万であった。また、職業形態に関しては、「常時雇用されている一般従業者」が 63.8%と最も多く、次に多い「自営業主・自由業者」の 12.1%と比較しても 5 倍強であった（図 4）。また、表 2 にあるように、全体の平均勤務時間は 8.37 時間であり、東京は 8.38 時間、東北 8.33 時間、北陸 8.41 時間、九州 8.44 時間、沖縄 8.28 時間とあまり地域差はみられなかった。

図２　最終学歴の分布（N=5000）

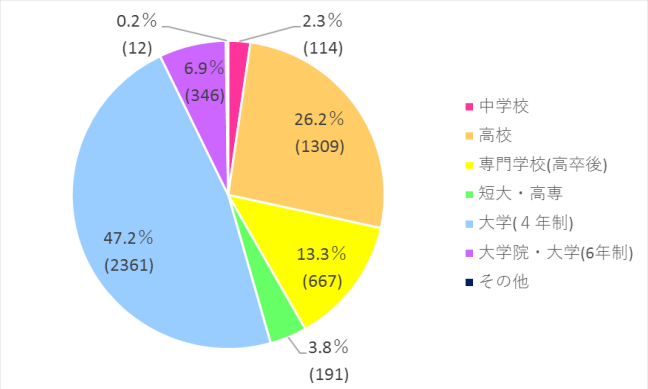


表１　年収（カテゴリーの中央値に置き換え、「回答したくない」「わからない」は欠損値）

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
全体	4335	0	2500	410.28	338.67
東京	874	0	2500	501.22	374.21
東北	869	0	2500	350.55	293.49
北陸	854	0	2500	389.17	312.46
九州	885	0	2500	377.93	300.90
沖縄	853	0	2500	432.64	382.58

図３　年収の分布（N=4078）

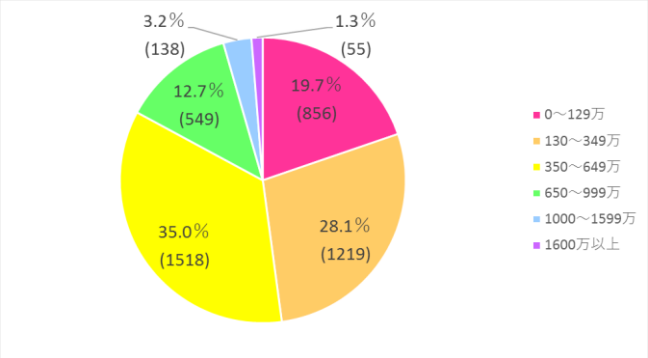


図４　職業形態（N=4150、「現在、仕事についていない」は対象外）

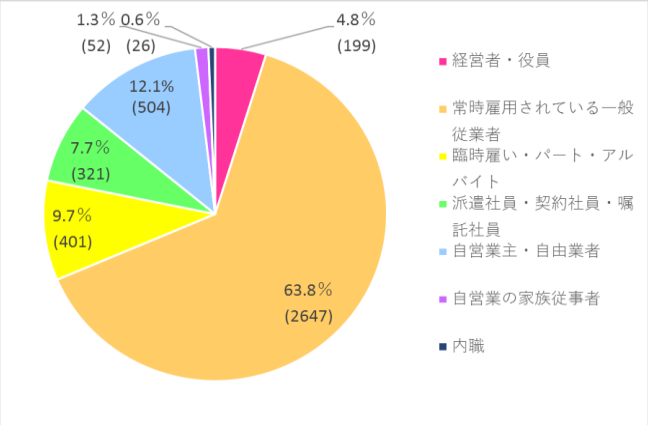
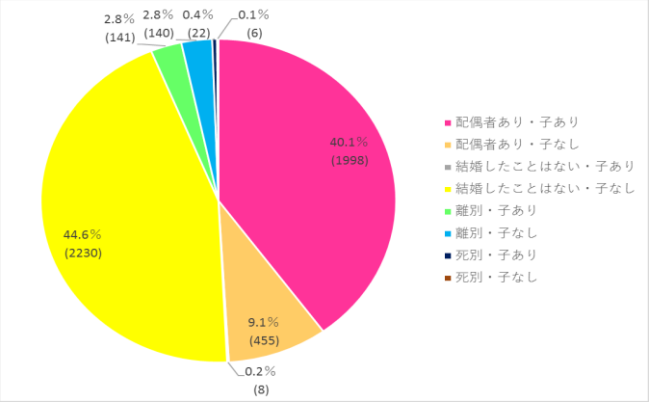


表 2　勤務時間（休職者を除く就労者のみ対象、労働時間が 17 時間以上/日は欠損値）

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
全体	4031	0	16	8.37	1.94
東京	841	0	16	8.38	2.01
東北	769	1	16	8.33	1.89
北陸	794	0	16	8.41	1.99
九州	784	0	15	8.44	2.04
沖縄	843	1	15	8.28	1.78

最後に図 5 に示したように、全体の 44.6%は「結婚したことはない・子なし」で最も多く、次いで「配偶者あり・子あり」（40.1%）であった。また 9.1%は「配偶者あり・子なし」であった。

図 5　婚姻状況と子どもの有無



III.　記述統計（分散分析・クロス表・相関分析）

本項では調査票に含まれる主要変数について、年代と地域の差を分散分析により検定（シェッフェの多重比較）した結果を提示する。また、家事・育児・介護頻度については、勤務・通勤時間、年代、地域、学歴、役職との関連をクロス表分析で検証した。

1.　仕事での競争意識［問 6（ア）（イ）・（ウ）から尺度を作成、平均値が高いほど、仕事での競争意識が高い。］

表 3 にあるように、仕事における競争意識（「業績を上げて評価されたい」、「競争に勝ちたい」、「男同士では自分と相手の上下関係を意識している」）については、20 代が 8.33 で最も高く、50 代と 60 代で低い。また、20 代と他の年代を比較すると仕事の競争意識の高さには統計的に有意な差がみられた。

表 3　年代×仕事での競争意識

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	955	8.33	2.34	0.08	8.18	8.48	3	12
30代	1247	7.93	2.36	0.07	7.80	8.06	3	12
40代	1396	7.72	2.31	0.06	7.60	7.84	3	12
50代	796	7.63	2.26	0.08	7.47	7.79	3	12
60代	606	7.64	2.20	0.09	7.46	7.81	3	12
合計	5000	7.86	2.32	0.03	7.80	7.93	3	12

仕事における競争意識についての地域比較をしたところ、東京に居住する男性で最も高く、東北と北陸に住む男性よりも統計的に有意な差があった（表 4）。

表 4　地域×仕事での競争意識

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	1000	8.05	2.36	0.07	7.90	8.20	3	12
東北	1000	7.71	2.35	0.07	7.57	7.86	3	12
北陸	1000	7.68	2.24	0.07	7.54	7.82	3	12
九州	1000	7.95	2.36	0.07	7.81	8.10	3	12
沖縄	1000	7.92	2.29	0.07	7.78	8.06	3	12
合計	5000	7.86	2.32	0.03	7.80	7.93	3	12

2.　職場における女性観［問 6（エ）（オ）（カ）（ク）（ケ）から尺度を作成、平均値が高いほど、職場の女性観が伝統的である。］

職場における女性に対する考えとしては「できれば女性の上司は持ちたくない」「自分の意見をはっきり言う女性はつい敬遠してしまう」「女性には重要な仕事をまかせられない」「職場の中で女性は有能なパートナーにはなりえない」「女性は家庭のことをキチンとしてから仕事に出るべきだ」の 5 項目を足した尺度を作成した。表 5 にあるように、20 代と 30 代と比べると、50 代と 60 代は伝統的な考えを持っている傾向があり、この年代の差は統計的に有意であることがわかった。

表 5　年代×職場における女性観

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	955	10.24	3.69	0.12	10.00	10.47	5	20
30代	1247	10.24	3.59	0.10	10.04	10.44	5	20
40代	1396	10.43	3.31	0.09	10.25	10.60	5	20
50代	796	10.53	3.14	0.11	10.31	10.74	5	20
60代	606	11.06	3.00	0.12	10.82	11.30	5	20
合計	5000	10.44	3.41	0.05	10.34	10.53	5	20

次に職場における女性観について地域比較を行った結果（表 6)、沖縄の男性が他の地域と比べるとより平等的な女性観を持っていることがわかる。

表 6　地域×職場における女性観

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	1000	10.58	3.68	0.12	10.35	10.80	5	20
東北	1000	10.55	3.44	0.11	10.34	10.76	5	20
北陸	1000	10.56	3.18	0.10	10.36	10.76	5	20
九州	1000	10.59	3.33	0.11	10.38	10.79	5	20
沖縄	1000	9.91	3.35	0.11	9.70	10.11	5	20
合計	5000	10.44	3.41	0.05	10.34	10.53	5	20

3.　**性別役割分業観**［問 7 から尺度を作成、平均値が高いほど、性別役割分業観が伝統的である。］

この尺度は「男は外で働き、女性は家庭を守るべきである」「男は妻子を養うべきである」「子どもが 3 歳くらいまでは、母親は仕事を持たずに育児に専念すべきだ」「家事や子どもの世話は女性がするほうがよい」「高齢者介護は女性がするほうがよい」の項目を足して作成した。表 7 に示すように、60 代は 20 代〜50 代と比較すると伝統的な性別役割分業観を持っており、この差は統計的に有意である。続いて、地域差をみると、職場における女性観と同様に、沖縄では東京・北陸・九州に比べて性別役割分業観が平等的である（表 8)。

表 7　年代×性別役割分業観

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	955	11.57	3.45	0.11	11.35	11.79	5	20
30代	1247	11.29	3.47	0.10	11.10	11.48	5	20
40代	1396	11.88	3.31	0.09	11.71	12.06	5	20
50代	796	12.27	3.32	0.12	12.03	12.50	5	20
60代	606	13.25	3.03	0.12	13.01	13.49	5	20
合計	5000	11.90	3.40	0.05	11.81	12.00	5	20

表 8　地域×性別役割分業観

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	1000	12.08	3.50	0.11	11.86	12.30	5	20
東北	1000	11.84	3.37	0.11	11.63	12.04	5	20
北陸	1000	12.05	3.18	0.10	11.86	12.25	5	20
九州	1000	12.15	3.36	0.11	11.94	12.36	5	20
沖縄	1000	11.39	3.51	0.11	11.18	11.61	5	20
合計	5000	11.90	3.40	0.05	11.81	12.00	5	20

4.　**協調性**［問 8（ア）（イ）（ウ）（オ）（カ）、数値が高いほど協調性が高い。］

協調性として、「相手の立場にたって考えられる」「素直に謝ることができる」「自分と異なる意見を、受け入れることができる」「思いやりをもって人と接している」「人と協力できる」を足して尺度を作成した。表 9 からわかるように、協調性が最も高いのは 60 代であり、最も低いのは 30 代で、この年代の差は統計的に有意であった（表 9）。また、表 10 にあるように、東京在住者の協調性が最も高く、次いで沖縄在住者が高い。これらの地域と比較して、東北や北陸男性の協調性は低く、この差は統計的に有意であった。

表 9　年代×協調性

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	955	14.35	3.03	0.10	14.16	14.54	5	20
30代	1247	13.97	3.00	0.08	13.80	14.13	5	20
40代	1396	14.17	2.68	0.07	14.03	14.31	5	20
50代	796	14.41	2.54	0.09	14.23	14.59	5	20
60代	606	14.74	2.29	0.09	14.56	14.92	5	20
合計	5000	14.26	2.78	0.04	14.18	14.34	5	20

表 10　地域×協調性

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	1000	14.51	2.86	0.09	14.33	14.69	5	20
東北	1000	14.05	2.94	0.09	13.87	14.23	5	20
北陸	1000	14.08	2.58	0.08	13.92	14.24	5	20
九州	1000	14.20	2.77	0.09	14.03	14.37	5	20
沖縄	1000	14.46	2.69	0.09	14.30	14.63	5	20
合計	5000	14.26	2.78	0.04	14.18	14.34	5	20

5.　**感情表現**［問 8（ク）（ケ）（コ）（サ）、平均値が高いほど、自分の気持ちを他者に開示できる。］

「家族や周りの人に感謝の言葉をよく言う」「自分の素直な気持ちを他人によく話す」「悩みがあったら、気軽に誰かに相談する」「他人に弱音を吐くことがある」を足して尺度を作成した。20 代の男性が自分の感情を表現することが多い傾向にあるが、年代による統計的に有意な差はなかった。地域差に関しては、東京在住者で、東北・北陸・沖縄在住者と比較して、自分の感情を開示する傾向が有意に高いことがわかる（表 11）。

表 11　地域×感情表現

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	1000	10.00	2.53	0.08	9.84	10.15	4	16
東北	1000	9.56	2.50	0.08	9.40	9.71	4	16
北陸	1000	9.51	2.33	0.07	9.37	9.66	4	16
九州	1000	9.90	2.49	0.08	9.74	10.05	4	16
沖縄	1000	9.64	2.49	0.08	9.48	9.79	4	16
合計	5000	9.72	2.48	0.04	9.65	9.79	4	16

6.　**孤独感**［問 9、平均値が高いほど、孤独、やる気がしない、死にたいと感じた頻度が高い。］

「孤独だと感じたこと」「何もやる気がしないと感じたこと」「死にたいと思ったこと」の 3 項目について「まったくなかった」から「よくあった」までの 4 回答項目で尋ねた。その結果、表 12 に示したように、20 代男性の孤独感が最も高く、年代が高くなるにつれ低かった。また、この差は統計的に有意であった。この尺度の地域差に関しては、東北在住者で最も頻繁に孤独感を感じていることがわかり、東京と沖縄では有意に低かった（表 13）。孤独感に関する学歴による有意な差はみられなかった。また、地域、学歴、孤独感の 3 変数関係をクロス表（カイ二乗）で検定した結果、九州のみ 5%水準で学歴と孤独感に関連がみられた。

表 12　年代×孤独感

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	955	2.73	0.97	0.03	2.67	2.80	1	4
30代	1247	2.61	0.97	0.03	2.55	2.66	1	4
40代	1396	2.59	0.94	0.03	2.54	2.64	1	4
50代	796	2.54	0.93	0.03	2.48	2.61	1	4
60代	606	2.26	0.84	0.03	2.20	2.33	1	4
合計	5000	2.58	0.95	0.01	2.55	2.60	1	4

表 13　地域×孤独感

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	1000	2.51	0.97	0.03	2.45	2.57	1	4
東北	1000	2.65	0.95	0.03	2.59	2.71	1	4
北陸	1000	2.60	0.92	0.03	2.54	2.66	1	4
九州	1000	2.62	0.93	0.03	2.56	2.67	1	4
沖縄	1000	2.50	0.96	0.03	2.44	2.56	1	4
合計	5000	2.58	0.95	0.01	2.55	2.60	1	4

表 14 では年代別に「何もやる気がしないと感じた」頻度を示したが、20 代や 30 代の若い年代ほど何もやる気がしないと感じていることがわかる。また、20 代と 40 代、50 代、60 代との差は統計的に有意であった。次に表 15 では地域別に「何もやる気がしないと感じた」頻度を提示しているが、東北・北陸・九州では、東京や沖縄在住者よりも何もやる気がしないと感じている頻度が高かった。また、この東北、北陸あるいは九州と東京と沖縄の差は統計的に有意であった。また、地域、学歴、何もやる気がしないの 3 変数関係をクロス表（カイ二乗）で検定した結果、九州のみ 5%水準で学歴とやる気に関連（学歴が低いとやる気がない傾向）がみられた。

表 14　年代×何もやる気がしない

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	955	2.78	0.95	0.03	2.72	2.84	1	4
30代	1247	2.66	0.97	0.03	2.61	2.71	1	4
40代	1396	2.57	0.95	0.03	2.52	2.62	1	4
50代	796	2.48	0.94	0.03	2.42	2.55	1	4
60代	606	2.20	0.84	0.03	2.14	2.27	1	4
合計	5000	2.58	0.96	0.01	2.55	2.60	1	4

表 15　地域×何もやる気がしない

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	1000	2.49	0.98	0.03	2.43	2.55	1	4
東北	1000	2.64	0.95	0.03	2.58	2.70	1	4
北陸	1000	2.62	0.92	0.03	2.57	2.68	1	4
九州	1000	2.65	0.95	0.03	2.59	2.71	1	4
沖縄	1000	2.48	0.97	0.03	2.42	2.54	1	4
合計	5000	2.58	0.96	0.01	2.55	2.60	1	4

表 16 では年代別に「死にたいと思った」頻度を示したが、20 代や 30 代の若い年代ほど死にたいと感じている割合が高い。一方、60 代は他の年代と比較して「死にたい」と思っている人の割合が低い。また、20 代と 40 代、50 代、60 代との差は統計的に有意であった。次に表 17 では地域別に「死にたい」と感じた頻度を提示しているが、東北・北陸・九州では、東京や沖縄在住者よりも死にたいと感じている頻度が高かった。また、この東北、北陸あるいは九州と沖縄の差は統計的に有意であった。また、地域×学歴×死にたいの関係をクロス表（カイ二乗）で検定した結果、有意な差はなかった。

表 16　年代×死にたい

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	955	2.17	1.06	0.03	2.10	2.23	1	4
30代	1247	2.07	1.02	0.03	2.02	2.13	1	4
40代	1396	1.90	0.99	0.03	1.84	1.95	1	4
50代	796	1.78	0.94	0.03	1.71	1.84	1	4
60代	606	1.53	0.77	0.03	1.47	1.59	1	4
合計	5000	1.93	1.00	0.01	1.90	1.96	1	4

表 17　地域×死にたい

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	1000	1.87	1.01	0.03	1.81	1.93	1	4
東北	1000	2.05	1.03	0.03	1.98	2.11	1	4
北陸	1000	1.97	0.98	0.03	1.91	2.03	1	4
九州	1000	1.98	1.00	0.03	1.92	2.05	1	4
沖縄	1000	1.77	0.96	0.03	1.71	1.83	1	4
合計	5000	1.93	1.00	0.01	1.90	1.96	1	4

7.　**暴力の加害・被害**［問 10（ア）（イ）、学歴はその他を欠損値にしたため N=4005、平均値が高いほど、暴力の加害・被害を経験した頻度が高い。］

「DV（配偶者や恋人への暴力）を振るったこと」（加害経験）と「DV(配偶者や恋人からの暴力を受けたこと）（被害経験）に対して「よくあった」から「まったくなかった」の 4 項目から選択して回答してもらった。年代差に関しては、20 代が最も加害経験が有意に多く、50 代が一番少なかった（表 18)。また、加害経験に関する有意な地域差はみられなかった。学歴による違いとしては、短大・専門学校卒は大学・大学院卒よりも暴力の加害経験が多いことがわかった（表 19)。

表 18　年代×暴力の加害経験

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	560	1.45	0.87	0.04	1.38	1.52	1	4
30代	990	1.29	0.68	0.02	1.25	1.33	1	4
40代	1180	1.22	0.58	0.02	1.19	1.26	1	4
50代	704	1.18	0.49	0.02	1.14	1.22	1	4
60代	580	1.24	0.53	0.02	1.20	1.28	1	3
合計	4014	1.27	0.64	0.01	1.25	1.29	1	4

表 19　学歴×暴力の加害経験

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
中学・高校	1087	1.27	0.64	0.02	1.23	1.31	1	4
短大・専門学校	668	1.33	0.71	0.03	1.27	1.38	1	4
大学・大学院	2250	1.25	0.61	0.01	1.22	1.27	1	4
合計	4005	1.27	0.64	0.01	1.25	1.29	1	4

暴力の被害経験に関しては、20 代の男性が他の年代と比較して多かった（表 20）。また東京在住者の方が特に沖縄と比べると被害経験が多いことがわかった（表 21）。学歴と暴力被害に関しては有意な関係がみられなかった。

表 20　年代×暴力の被害経験

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	560	1.46	0.85	0.04	1.38	1.53	1	4
30代	990	1.32	0.71	0.02	1.27	1.36	1	4
40代	1180	1.22	0.57	0.02	1.19	1.25	1	4
50代	704	1.17	0.48	0.02	1.14	1.21	1	4
60代	580	1.18	0.47	0.02	1.14	1.21	1	4
合計	4014	1.26	0.64	0.01	1.24	1.28	1	4

表 21　地域×暴力の被害経験

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	812	1.33	0.72	0.03	1.28	1.38	1	4
東北	767	1.24	0.59	0.02	1.20	1.28	1	4
北陸	797	1.25	0.60	0.02	1.21	1.29	1	4
九州	796	1.29	0.68	0.02	1.24	1.33	1	4
沖縄	842	1.21	0.58	0.02	1.17	1.25	1	4
合計	4014	1.26	0.64	0.01	1.24	1.28	1	4

8.　**家事頻度**　［問 5（ア）～（ク）、各回答項目の「ほとんど行わない」（0 点）から「ほぼ毎日」（7 点）を足し最小 0 点から 56 点にして、8（項目数）で割ったので、範囲は週に 0～7 点となり、高い数値ほど頻度が高い。］

家事の項目は「食事の用意」「食事のあとかたづけ」「食料品や日用品の買い物」「洗濯」「洗濯物をたたむ」「掃除（部屋）」「掃除（風呂）」「掃除（トイレ）」を含む。これらの項目を足して家事頻度尺度を作成し、年代・地域・居住形態の差をみた。その結果、年代に関しては、20 代が最も頻繁に家事をしており、60 代が最も低く、有意な差がみられ

た（表 22）。また、地域差をみると東京や沖縄の男性の家事参加頻度は高いが、他の地域（特に北陸）では有意に低かった（表 23）。居住形態による差の t 検定結果をみると、独居男性の家事参加が同居男性と比較して有意に高い。またこの傾向は全地域で共通してみられた。学歴と家事頻度に関しては有意な差がみられなかった。最後に通勤・労働時間と家事頻度の関連をみると、有意ではあるが弱い相関であり、勤務・通勤時間が長いほど、家事頻度が少ない傾向であった。

表 22　年代×家事頻度

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	955	2.62	1.96	0.06	2.50	2.75	0	7
30代	1247	2.17	1.66	0.05	2.08	2.26	0	7
40代	1396	2.01	1.69	0.05	1.92	2.10	0	7
50代	796	1.96	1.67	0.06	1.84	2.07	0	7
60代	606	1.89	1.71	0.07	1.75	2.02	0	7
合計	5000	2.14	1.76	0.02	2.10	2.19	0	7

表 23　地域×家事頻度

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	1000	2.42	1.82	0.06	2.30	2.53	0	7
東北	1000	2.17	1.79	0.06	2.06	2.28	0	7
北陸	1000	1.85	1.62	0.05	1.75	1.95	0	7
九州	1000	2.07	1.79	0.06	1.96	2.18	0	7
沖縄	1000	2.22	1.71	0.05	2.12	2.33	0	7
合計	5000	2.14	1.76	0.02	2.10	2.19	0	7

9.　**育児頻度**［問 13-2（ア）～（カ）、各回答項目の「ほとんど行わない」（0 点）から「ほぼ毎日」（7 点）を足し最小 0 点から 42 点にして、6（項目数）で割ったので、範囲は週に 0～7 点となり、高い数値ほど頻度が高い。「あてはまらない」は欠損値とした。］

子どもがいる対象者で末子年齢が 6 歳以下の男性を対象にした（N=579）。「食事の世話」「一緒に食事」「着替えや身支度の世話」「一緒にお風呂」「オムツやトイレの世話」「一緒に遊ぶ」を育児として含み、年代・居住地・学歴・通勤労働時間の差をみた。その結果、年代と学歴による育児頻度の差はみられなかったが、東北男性は東京や九州男性と比較するとより頻繁に育児をしていた（表 24）。通勤・労働時間との関係については、家事参加と同様に、負の関係がみられた。

表 24　地域×育児頻度

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	117	3.41	1.80	0.17	3.08	3.74	0	7
東北	103	4.24	1.93	0.19	3.86	4.61	0	7
北陸	111	3.65	2.03	0.19	3.27	4.04	0	7
九州	132	3.48	1.85	0.16	3.16	3.79	0	7
沖縄	116	3.84	1.72	0.16	3.53	4.16	0.5	7
合計	579	3.70	1.88	0.08	3.55	3.86	0	7

10. 介護頻度 ［問 14 で「現在、中心となって介護している」と回答した人(N=123)および「現在、介護を手伝っている」と回答した人（N=211）の合計 334 名を対象に、問 14-4 の（ア）～（オ）をみた。各回答項目の「ほとんど行わない」(0 点）から「ほぼ毎日」（7 点）を足し最小 0 点から 35 点にして、5（項目数）で割ったので、範囲は週に 0～7 点となり、高い数値ほど頻度が高い。「あてはまらない」は欠損値とした。］

介護項目として含んだのは「介護（入浴、着替え、食事、排泄の手助けなど)」「家事援助（食事の準備、洗濯、掃除、その他の家事)」「外出時の付き添い、送迎」「(介護者の方の)お金の管理、介護サービスなどの手配・調整」「話し相手、見守り（他の項目をしながらの話し相手、見守りは含まない)」である。

年代の比較を行った結果（表 25)、20 代男性の介護頻度が高い傾向にあるが、統計的に有意な年代差はなかった。更に、20 代男性の介護頻度についてクロス表分析をしてみると、20 代で「中心的に介護をしている男性」は自身の父親（29.2%）や母親（20.8%）を介護している場合が最も多く、祖父や祖母の介護をしている 20 代の男性は 12.5%であった。

表 25　年代×介護頻度

年代	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
20代	66	3.38	2.17	0.27	2.85	3.92	0	7
30代	73	3.09	2.13	0.25	2.59	3.58	0	7
40代	65	2.43	1.86	0.23	1.97	2.90	0	7
50代	70	2.39	2.04	0.24	1.90	2.87	0	7
60代	60	2.78	2.10	0.27	2.23	3.32	0	7
合計	334	2.82	2.09	0.11	2.59	3.04	0	7

居住地域と介護頻度については東京および東北地方在住者の介護頻度が多い傾向にはあるが、全体的に有意な地域差はみられなかった（表 26)。

表 26　地域×介護頻度

地域	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
東京	70	3.16	2.22	0.26	2.63	3.69	0	7
東北	72	3.16	2.18	0.26	2.65	3.67	0	7
北陸	69	2.42	1.92	0.23	1.96	2.88	0	7
九州	69	2.73	2.02	0.24	2.24	3.21	0	7
沖縄	54	2.53	2.00	0.27	1.99	3.08	0	7
合計	334	2.82	2.09	0.11	2.59	3.04	0	7

学歴に関しても同様に有意な差がなかった。また、男性の職位と介護頻度の関連を検討したところ、「役職なし」「係長」クラスの男性の介護頻度が多い傾向にはあるが、全体的に有意な差はなかった。

IV. 共分散構造分析の結果

分析対象を「既婚子どもあり」「既婚子どもなし」「独身子どもなし」の３グループに分け、分析モデル（図 6）にもとづき、共分散構造分析を行った。この分析モデルでは、本プロジェクトで焦点をあてた「新しい男性の役割」として従属変数には家事と育児頻度を含んだ。また、独立変数には主な属性を投入して、仕事での競争意識、職場における女性観、家庭における性別役割分業観を媒介変数とした。

1.既婚子どもありの結果

(1) 全体（N=1998）

既婚子どもありの分析モデルを図 6 に示す。分析結果の詳細およびモデルの適合度は表 23-1 および表 23-2 を参照のこと。

① 潜在変数間の関係：「家庭における性別役割分業観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」（標準化係数-.186<以下の表記も同様>）、「育児の実施頻度」は低くなる(-.141)。「職場の女性観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」が高くなる(.160)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人の年収」が多いほど(.147)、「末子年齢」が高いほど(.151)、「本人の学歴」が高いほど上昇するが(.055)、「本人の年齢」が高いほど(-.356)、「配偶者の学歴」が高いほど低下する(-.053)。

③ 「職場の女性観」については、「配偶者の学歴」が高いほど平等的になる(-.069)。

④ 「家庭における性別役割分業観」は、「本人の年収」が多いほど(.122)、「末子年齢」が高いほど伝統的になるが(.148)、「配偶者の年収」が多いほど(-.192)、「配偶者の学歴」が高いほど平等的になる(-.060)。

⑤ 「家事の実施頻度」については、「本人が就業している人」(-.075)、「本人の年収」が多いほど(-.093)、「本人年齢」が高いほど減少するが(-.151)、「配偶者の学歴」が高い

ほど(.066)、「配偶者の年収」が多いほど高くなる(.198)。

⑥ 「育児の実施頻度」は、「末子年齢」が高いほど(.157)、「配偶者の年収」が多いほど(.091)高くなる。

(2) 末子6歳未満 (N=578)

既婚子どもありのうち、末子6歳未満に対象者を限定し分析を行った。分析結果の詳細およびモデルの適合度は表23-1および表23-2に提示する。

① 潜在変数間の関係:「職場の女性観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」が高くなる(.277)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人の学歴」が高いほど上昇するが(.115)、「本人の年齢」が上昇するほど低下する(-.220)。

③ 「家庭における性別役割分業観」は「本人の年収」が多いほど伝統的になるが(.167)、「配偶者の学歴」が高いほど平等的になる(-.119)。

④ 「家事の実施頻度」は「配偶者の年収」が多いほど増加するが(.274)、「子ども数」が多いほど低下する(-.103)。

⑤ 「育児の実施頻度」は「末子年齢」が高いほど低下し(-.124)、「配偶者の年収」が多いほど増加する(.209)。

(3) 末子6歳以上(N=1420)

既婚子どもありのうち、末子6歳以上に対象者を限定した分析を実施した。分析結果の詳細およびモデルの適合度は表23-1および表23-2に示した。

① 潜在変数間の関係:「家庭における性別役割分業観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」(標準化係数-.244<以下の表記も同様>)や「育児の実施頻度」は低下し(-.132)、「職場の女性観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」が増加する(.086)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人の年収」が多いほど(.178)、「末子年齢」が高いほど上昇する(.132)が、「本人の年齢」が高いほど低下する(-.202) 。

③ 「職場の女性観」については、「配偶者の学歴」が高いほど平等的になる(-.071)。

④ 「家庭における性別役割分業観」は、「本人の年収」が多いほど伝統的になるが(.120)、「配偶者の年収」が多いほど(-.249)、「配偶者の学歴」が高いほど平等的になる(-.060)。

⑤ 「家事の実施頻度」については、「本人が就業している人」(-.077)、「本人の収入」が多いほど減少するが(-.106)、「配偶者の学歴」が高いほど(.077)、「配偶者の収入」が多いほど高くなる(.147)。

⑥ 「育児の実施頻度」は、「本人が就業している人」(.069)、「末子年齢」が高いほど多くなる(.231)。

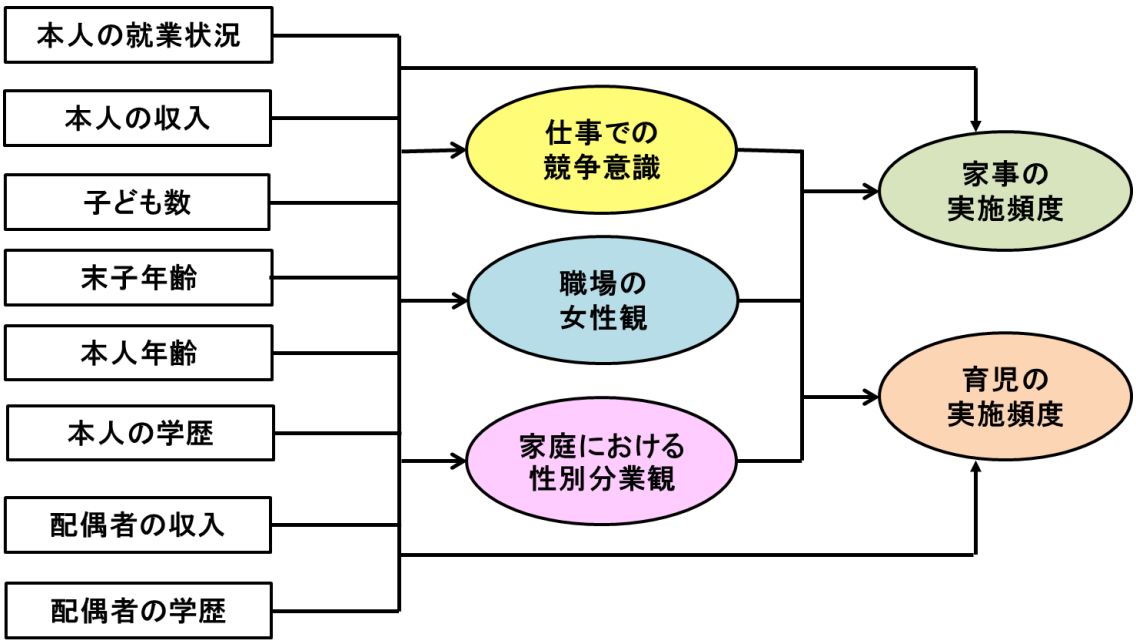


図６　既婚子どもありの分析モデル

表 27-1　既婚子どもありの分析結果①(推定値は標準化係数、以下の表も同様)

			全体		末子6歳未満		末子6歳以上	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事での競争意識	<---	本人の就業状況	−0.019	0.469	−0.007	0.877	0.002	0.943
仕事での競争意識	<---	本人の収入	0.147	***	0.076	0.099	0.178	***
仕事での競争意識	<---	子ども数	0.024	0.314	0.081	0.079	0.015	0.596
仕事での競争意識	<---	末子年齢	0.151	**	−0.063	0.168	0.132	*
仕事での競争意識	<---	本人年齢	−0.356	***	−0.220	***	−0.202	***
仕事での競争意識	<---	本人の学歴	0.055	*	0.115	*	0.023	0.453
仕事での競争意識	<---	配偶者の収入	−0.016	0.499	0.052	0.242	−0.044	0.109
仕事での競争意識	<---	配偶者の学歴	−0.053	*	−0.067	0.173	−0.051	0.094
職場の女性観	<---	本人の就業状況	−0.003	0.904	−0.032	0.477	0.017	0.613
職場の女性観	<---	本人の収入	0.017	0.503	0.018	0.695	0.019	0.533
職場の女性観	<---	子ども数	−0.034	0.186	0.000	0.998	−0.046	0.133
職場の女性観	<---	末子年齢	0.074	0.191	−0.059	0.204	−0.002	0.971
職場の女性観	<---	本人年齢	−0.038	0.501	−0.092	0.059	0.036	0.525
職場の女性観	<---	本人の学歴	0.049	0.071	0.019	0.706	0.057	0.076
職場の女性観	<---	配偶者の収入	0.012	0.614	0.073	0.108	−0.030	0.315
職場の女性観	<---	配偶者の学歴	−0.069	*	−0.062	0.213	−0.071	*
家庭における性別分業観	<---	本人の就業状況	−0.009	0.735	−0.044	0.336	0.011	0.706
家庭における性別分業観	<---	本人の収入	0.122	***	0.167	***	0.120	***
家庭における性別分業観	<---	子ども数	0.024	0.330	0.042	0.377	0.016	0.573
家庭における性別分業観	<---	末子年齢	0.148	**	−0.080	0.090	0.093	0.075
家庭における性別分業観	<---	本人年齢	0.007	0.901	−0.051	0.299	0.014	0.797
家庭における性別分業観	<---	本人の学歴	0.038	0.151	0.077	0.133	0.037	0.219
家庭における性別分業観	<---	配偶者の収入	−0.192	***	−0.068	0.140	−0.249	***
家庭における性別分業観	<---	配偶者の学歴	−0.060	*	−0.119	*	−0.060	*
家事の実施頻度	<---	仕事での競争意識	0.000	0.996	0.001	0.977	0.014	0.652
家事の実施頻度	<---	職場の女性観	0.160	***	0.277	***	0.086	*
家事の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	−0.186	***	−0.082	0.259	−0.244	***
家事の実施頻度	<---	本人の就業状況	−0.075	**	0.029	0.506	−0.077	*
家事の実施頻度	<---	本人の収入	−0.093	***	−0.040	0.383	−0.106	***
家事の実施頻度	<---	子ども数	−0.040	0.111	−0.103	*	0.002	0.949
家事の実施頻度	<---	末子年齢	−0.062	0.254	−0.042	0.360	−0.048	0.382
家事の実施頻度	<---	本人年齢	−0.151	**	−0.083	0.088	−0.075	0.182
家事の実施頻度	<---	本人の学歴	0.045	0.089	0.029	0.554	0.042	0.185
家事の実施頻度	<---	配偶者の収入	0.198	***	0.274	***	0.147	***
家事の実施頻度	<---	配偶者の学歴	0.066	*	0.031	0.528	0.077	*
育児の実施頻度	<---	仕事での競争意識	0.009	0.730	0.093	0.070	−0.040	0.178
育児の実施頻度	<---	職場の女性観	0.008	0.815	−0.012	0.855	0.009	0.816
育児の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	−0.141	***	−0.128	0.078	−0.132	***
育児の実施頻度	<---	本人の就業状況	0.024	0.356	0.005	0.917	0.069	*
育児の実施頻度	<---	本人の収入	−0.024	0.355	−0.045	0.337	0.001	0.979
育児の実施頻度	<---	子ども数	−0.025	0.317	−0.070	0.137	0.028	0.337
育児の実施頻度	<---	末子年齢	0.157	**	−0.124	**	0.231	***
育児の実施頻度	<---	本人年齢	−0.014	0.806	0.055	0.261	0.030	0.581
育児の実施頻度	<---	本人の学歴	−0.021	0.439	−0.086	0.084	−0.021	0.484
育児の実施頻度	<---	配偶者の収入	0.091	***	0.209	***	0.042	0.150
育児の実施頻度	<---	配偶者の学歴	0.014	0.614	−0.051	0.298	0.037	0.227

表 27-2　既婚子どもありの分析結果②

			全体		末子6歳未満		末子6歳以上	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事で業績をあげ評価されたい	<---	仕事での競争意識	0.833		0.829		0.833	
仕事では競争に勝ちたい	<---	仕事での競争意識	0.916	***	0.883	***	0.920	***
男同士では、自分と相手との上下関係を意識している	<---	仕事での競争意識	0.526	***	0.455	***	0.555	***
男は外で働き、女性は家庭を守るべきである	<---	家庭における性別分業観	0.725		0.775		0.738	
男は妻子を養うべきである	<---	家庭における性別分業観	0.610	***	0.490	***	0.693	***
子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ	<---	家庭における性別分業観	0.743	***	0.709	***	0.751	***
家事や子どもの世話は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.784	***	0.725	***	0.761	***
高齢者介護は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.597	***	0.581	***	0.519	***
掃除(トイレ)	<---	家事の実施頻度	0.626		0.675		0.583	
掃除(風呂)	<---	家事の実施頻度	0.551	***	0.600	***	0.495	***
掃除(部屋)	<---	家事の実施頻度	0.654	***	0.728	***	0.603	***
洗濯(たたむ)	<---	家事の実施頻度	0.718	***	0.693	***	0.702	***
洗濯(洗濯機に入れる・干す)	<---	家事の実施頻度	0.676	***	0.635	***	0.670	***
食料品や日用品の買い物	<---	家事の実施頻度	0.574	***	0.591	***	0.591	***
食事のあとかたづけ	<---	家事の実施頻度	0.577	***	0.547	***	0.586	***
食事の世話	<---	家事の実施頻度	0.578	***	0.551	***	0.617	***
勉強や習い事の面倒をみる	<---	育児の実施頻度	0.635		0.417		0.715	
保育園・幼稚園、学校・塾などの送り迎え	<---	育児の実施頻度	0.606	***	0.445	***	0.668	***
会話をする	<---	育児の実施頻度	0.384	***	0.529	***	0.317	***
一緒に遊ぶ	<---	育児の実施頻度	0.660	***	0.682	***	0.655	***
オムツやトイレの世話をする	<---	育児の実施頻度	0.707	***	0.721	***	0.699	***
一緒にお風呂に入る	<---	育児の実施頻度	0.733	***	0.684	***	0.760	***
着替えや身支度の世話をする	<---	育児の実施頻度	0.777	***	0.785	***	0.797	***
一緒に食事をとる	<---	育児の実施頻度	0.449	***	0.638	***	0.376	***
食事の世話をする	<---	育児の実施頻度	0.703	***	0.713	***	0.694	***
できれば女性の上司は持ちたくない	<---	職場の女性観	0.657	***	0.616	***	0.652	***
自分の意見をはっきり言う女性はつい敬遠してしまう	<---	職場の女性観	0.630	***	0.584	***	0.631	***
女性には重要な仕事はまかせられない	<---	職場の女性観	0.767		0.792		0.771	
職場の中で女性は有能なパートナーにはなりえない	<---	職場の女性観	0.751	***	0.781	***	0.747	***
女性は家庭のことをきちんとしてから仕事にでるべきだ	<---	職場の女性観	0.663	***	0.708	***	0.597	***
***p<.000, **p<.01, *p<.05.								
サンプルサイズ			1998		578		1420	
χ二乗値			3309.91 ***		1324.11 ***		2418.120 ***	
GFI			0.961		0.887		0.914	
AGFI			0.896		0.857		0.893	
RMSEA			0.048		0.047		0.046	

2.　既婚子どもなしの結果(N=455)

既婚子どもなしの分析モデルを図 7 に示す。本モデルは、既婚子どもありの分析モデル(図 1)をもとにしているが、子どもに関する独立変数および育児の実施頻度に関する潜在変数を除いたものである。分析結果の詳細およびモデルの適合度は表 28-1 および表 28-2 に示した。

① 潜在変数間の関係：いずれの変数間においても有意な関係性は見出されなかった。

② 「仕事での競争意識」は、「本人が就業している人」(.165)、「本人の年収」が多いほど上昇するが(.139)、「本人の年齢」が高いほど低下する(-.140) 。

③ 「職場の女性観」については「本人の年収」が多いほど伝統的になる(.123)。

④ 「家庭における性別役割分業観」は、「本人が就業している人」(.100)、「本人の年収」が多いほど伝統的になるが(.163)、「配偶者の年収」が多いほど平等的になる(-.224)。

⑤ 「家事の実施頻度」は、「本人の年収」が多いほど(-.127)、「本人年齢」が高いほど減少するが(-.152)、「配偶者の年収」が多いほど増加する(.269)。

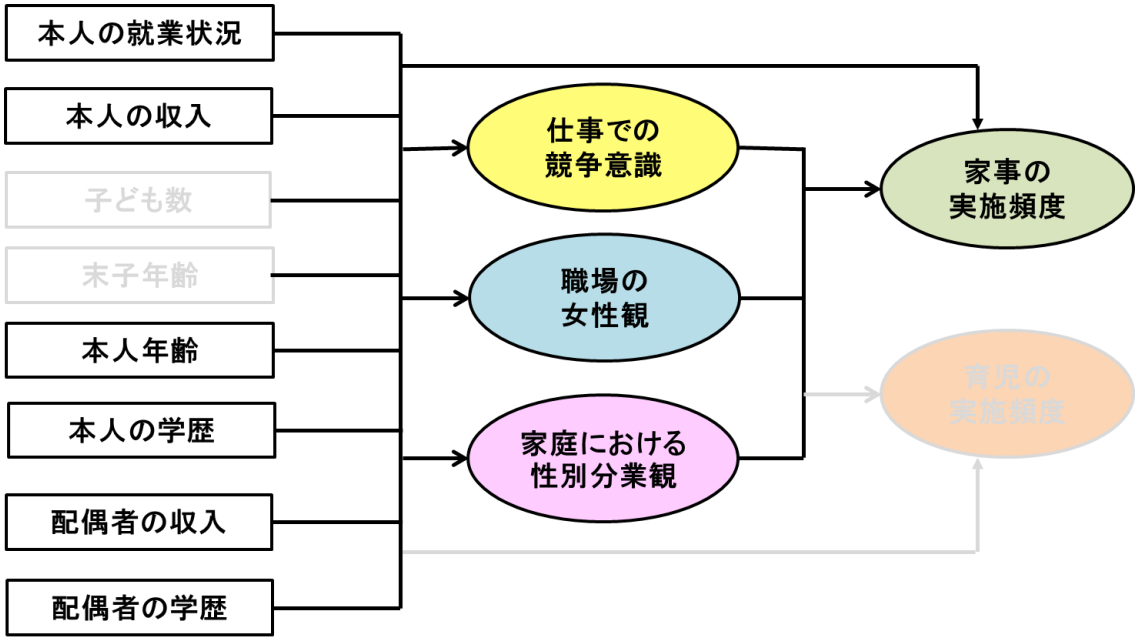


図 7　既婚子どもなしの分析モデル

表 28-1　既婚子どもなしの分析結果①

			推定値	確率
仕事での競争意識	<---	本人の就業状況	0.165	**
仕事での競争意識	<---	本人の収入	0.139	*
仕事での競争意識	<---	本人年齢	-0.140	**
仕事での競争意識	<---	本人の学歴	0.053	0.322
仕事での競争意識	<---	配偶者の収入	-0.050	0.340
仕事での競争意識	<---	配偶者の学歴	-0.022	0.683
職場の女性観	<---	本人の収入	0.123	*
職場の女性観	<---	本人年齢	-0.029	0.553
職場の女性観	<---	本人の学歴	-0.047	0.370
職場の女性観	<---	配偶者の収入	-0.070	0.175
職場の女性観	<---	配偶者の学歴	-0.038	0.482
職場の女性観	<---	本人の就業状況	0.072	0.152
家庭における性別分業観	<---	本人の就業状況	0.100	*
家庭における性別分業観	<---	本人の収入	0.163	**
家庭における性別分業観	<---	本人年齢	0.093	0.058
家庭における性別分業観	<---	本人の学歴	-0.082	0.113
家庭における性別分業観	<---	配偶者の収入	-0.224	***
家庭における性別分業観	<---	配偶者の学歴	-0.070	0.190
家事の実施頻度	<---	仕事での競争意識	0.068	0.218
家事の実施頻度	<---	職場の女性観	0.077	0.211
家事の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	-0.113	0.085
家事の実施頻度	<---	本人の就業状況	-0.068	0.194
家事の実施頻度	<---	本人の収入	-0.127	*
家事の実施頻度	<---	本人年齢	-0.152	**
家事の実施頻度	<---	本人の学歴	0.024	0.658
家事の実施頻度	<---	配偶者の収入	0.269	***
家事の実施頻度	<---	配偶者の学歴	0.085	0.127

表 28-2　既婚子どもなしの分析結果②

			推定値	確率
仕事で業績をあげ評価されたい	<---	仕事での競争意識	0.872	
仕事では競争に勝ちたい	<---	仕事での競争意識	0.888	***
男同士では、自分と相手との上下関係を意識している	<---	仕事での競争意識	0.557	***
できれば女性の上司は持ちたくない	<---	職場の女性観	0.650	
自分の意見をはっきり言う女性はつい敬遠してしまう	<---	職場の女性観	0.626	***
女性には重要な仕事はまかせられない	<---	職場の女性観	0.885	***
職場の中で女性は有能なパートナーにはなりえない	<---	職場の女性観	0.821	***
女性は家庭のことをきちんとしてから仕事にでるべきだ	<---	職場の女性観	0.645	***
男は外で働き、女性は家庭を守るべきである	<---	家庭における性別分業観	0.693	
男は妻子を養うべきである	<---	家庭における性別分業観	0.687	***
子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ	<---	家庭における性別分業観	0.794	***
家事や子どもの世話は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.811	***
高齢者介護は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.654	***
掃除(トイレ)	<---	家事の実施頻度	0.743	
掃除(風呂)	<---	家事の実施頻度	0.621	***
掃除(部屋)	<---	家事の実施頻度	0.710	***
洗濯(たたむ)	<---	家事の実施頻度	0.652	***
洗濯(洗濯機に入れる・干す)	<---	家事の実施頻度	0.661	***
食料品や日用品の買い物	<---	家事の実施頻度	0.582	***
食事のあとかたづけ	<---	家事の実施頻度	0.531	***
食事の世話	<---	家事の実施頻度	0.551	***

***p<.000, **p<.01, *p<.05.

サンプルサイズ	455
χ二乗値	597.22 ***
GFI	0.911
AGFI	0.882
RMSEA	0.049

3.　独身子どもなしの結果(N=2376)

独身子どもなしの分析モデルを図 8 に示す。本モデルは、既婚子どもありの分析モデル(図 6)をもとにしているが、子ども・配偶者に関する独立変数および育児の実施頻度に関する潜在変数を除いたものである。分析結果の詳細およびモデルの適合度は表 29-1 および表 29-2 に示した。

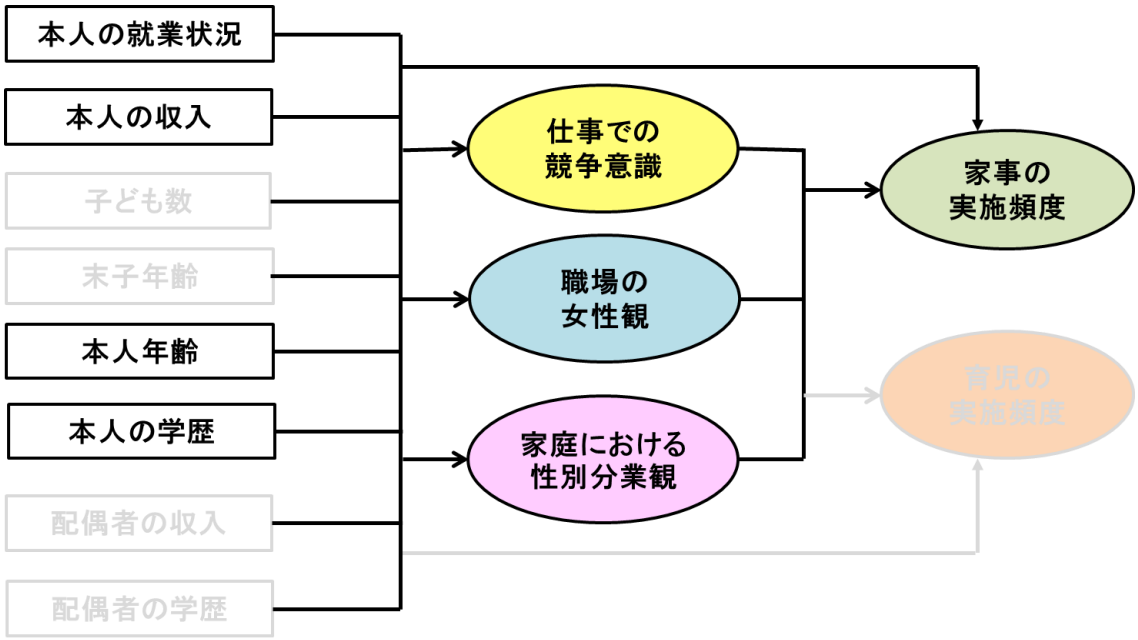


図 8　独身子どもなしの分析モデル

① 潜在変数間の関係：「仕事での競争意識」(.215)と「職場の女性観」(.079)は有意に「家事の実施頻度」を高くさせる。

② 「仕事での競争意識」は、「本人が就業している人」(.126)、「本人の年収」が多いほど(.072)、「本人の学歴」が高いほど上昇するが(.109)、「本人の年齢」が高いほど低下する(-.180)。

③ 「職場の女性観」については「本人の年収」が多いほど伝統的になる(.121)。

④ 「家庭における性別役割分業観」に対して有意な効果を示した変数はなかった。

⑤ 「家事の実施頻度」については、「本人年齢」が高いほど増加する(.063)。

表 29-1　独身子どもなしの分析結果①

			推定値	確率
仕事での競争意識	<---	本人の就業状況	0.126	***
仕事での競争意識	<---	本人の収入	0.072	**
仕事での競争意識	<---	本人年齢	-0.18	***
仕事での競争意識	<---	本人の学歴	0.109	***
職場の女性観	<---	本人の収入	0.121	***
職場の女性観	<---	本人年齢	-0.007	0.753
職場の女性観	<---	本人の学歴	-0.029	0.186
職場の女性観	<---	本人の就業状況	0.022	0.356
家庭における性別分業観	<---	本人の就業状況	0.036	0.126
家庭における性別分業観	<---	本人の収入	0.044	0.068
家庭における性別分業観	<---	本人年齢	0.029	0.183
家庭における性別分業観	<---	本人の学歴	0.009	0.691
家事の実施頻度	<---	仕事での競争意識	0.215	***
家事の実施頻度	<---	職場の女性観	0.079	*
家事の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	-0.057	0.074
家事の実施頻度	<---	本人の就業状況	0.036	0.138
家事の実施頻度	<---	本人の収入	0.014	0.562
家事の実施頻度	<---	本人年齢	0.063	**
家事の実施頻度	<---	本人の学歴	0.002	0.942

表 29-2　独身子どもなしの分析結果②

			推定値	確率
仕事で業績をあげ評価されたい	<---	仕事での競争意識	0.866	
仕事では競争に勝ちたい	<---	仕事での競争意識	0.886	***
男同士では、自分と相手との上下関係を意識している	<---	仕事での競争意識	0.589	***
できれば女性の上司は持ちたくない	<---	職場の女性観	0.719	
自分の意見をはっきり言う女性はつい敬遠してしまう	<---	職場の女性観	0.615	***
女性には重要な仕事はまかせられない	<---	職場の女性観	0.868	***
職場の中で女性は有能なパートナーにはなりえない	<---	職場の女性観	0.828	***
女性は家庭のことをきちんとしてから仕事にでるべきだ	<---	職場の女性観	0.691	***
男は外で働き、女性は家庭を守るべきである	<---	家庭における性別分業観	0.768	
男は妻子を養うべきである	<---	家庭における性別分業観	0.576	***
子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ	<---	家庭における性別分業観	0.755	***
家事や子どもの世話は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.814	***
高齢者介護は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.718	***
掃除(トイレ)	<---	家事の実施頻度	0.705	
掃除(風呂)	<---	家事の実施頻度	0.632	***
掃除(部屋)	<---	家事の実施頻度	0.718	***
洗濯(たたむ)	<---	家事の実施頻度	0.814	***
洗濯(洗濯機に入れる・干す)	<---	家事の実施頻度	0.819	***
食料品や日用品の買い物	<---	家事の実施頻度	0.701	***
食事のあとかたづけ	<---	家事の実施頻度	0.564	***
食事の世話	<---	家事の実施頻度	0.593	***

***p<.000, **p<.01, *p<.05.

サンプルサイズ	2376
χ二乗値	1648.70 ***
GFI	0.948
AGFI	0.931
RMSEA	0.049

4. 既婚子どもあり・年代別の結果

図 6 の分析モデルにもとづき、既婚子どもありのサンプルに限定して年代別のサブグループごとに分析を実施した。分析結果の詳細およびモデルの適合度は表 30-1 および表 30-2 に提示した。

(1) 20･30 代(N=550)

① 潜在変数間の関係:「家庭における性別役割分業観」が伝統的なほど「育児の実施頻度」は低下し(-.177)、「仕事での競争意識」が上昇するほど「育児の実施頻度」は増加する(.131)。また、「職場の女性観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」が高くなる(.338)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人の年収」が多いほど上昇するが(.124)、「末子年齢」が高いほど低下する(-.131)。

③ 「職場の女性観」については、「配偶者の年収」が多いほど平等的になる(.106)。

④ 「家庭における性別役割分業観」は、「本人の年収」が多いほど伝統的になる(.136)。

⑤ 「家事の実施頻度」については、「子ども数」が多いほど(-.123)、「末子年齢」が高いほど減少するが(-.118)、「配偶者の年収」が多いほど増加する(.252)。

⑥ 「育児の実施頻度」は、「子ども数」が多いほど(-.111)、「本人の学歴」が高いほど減少するが(-.116)、「配偶者の学歴」が高いほど増加する(.126)。

(2) 40･50 代(N=1037)

① 潜在変数間の関係:「家庭における性別役割分業観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」(-.198)、「育児の実施頻度」は低くなる(-.104)。また「仕事での競争意識」が上昇するほど「育児の実施頻度」は低くなる(-.072)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人の年収」が多いほど上昇する(.155)。

③ 「職場の女性観」を規定する要因は見出せなかった。

④ 「家庭における性別役割分業観」は、「本人の年収」が多いほど伝統的になるが(.151)、「配偶者の年収」が多いほど(-.281)、「配偶者の学歴」が高いほど平等的になる(-.076)。

⑤ 「家事の実施頻度」については、「本人の年収」が多いほど(-.084)、また、「末子年齢」が高いほど減少するが(-.102)、「配偶者の年収」が多いほど(.176)、「配偶者の学歴」が高いほど増加する(.096)。

⑥ 「育児の実施頻度」は、「本人の年収」が多いほど低下し(-.081)、「末子年齢」が高いほど(.227)、「配偶者の年収」が多いほど増加する(.090)。

(3) 60 代(N=411)

① 潜在変数間の関係:「家庭における性別役割分業観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」は低下する(-.327)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人の年収」が多いほど上昇する(.196)。

③　「職場の女性観」に対しては、「配偶者の学歴」が多いほど平等的であった(-.127)。

④　「家庭における性別役割分業観」は、「配偶者の収入」が多いほど平等的になった(-.207)。

⑤　「家事の実施頻度」は、「本人の年収」が多いほど低下する(-.163)。

⑥　「育児の実施頻度」への影響要因は見出されなかった。

表 30-1　既婚子どもあり・年代別の分析結果①

			20･30代		40･50代		60代	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事での競争意識	<---	本人の就業状況	−0.052	0.252	0.004	0.914	0.048	0.387
仕事での競争意識	<---	本人の収入	0.124	*	0.155	***	0.196	***
仕事での競争意識	<---	子ども数	0.002	0.964	0.025	0.445	−0.045	0.385
仕事での競争意識	<---	末子年齢	−0.131	**	−0.049	0.143	0.043	0.411
仕事での競争意識	<---	本人の学歴	0.046	0.366	0.005	0.901	0.073	0.185
仕事での競争意識	<---	配偶者の収入	0.013	0.780	−0.036	0.274	−0.001	0.992
仕事での競争意識	<---	配偶者の学歴	−0.015	0.761	−0.071	0.051	−0.092	0.092
職場の女性観	<---	本人の就業状況	−0.089	0.053	0.034	0.335	0.082	0.162
職場の女性観	<---	本人の収入	0.003	0.953	0.041	0.250	−0.063	0.284
職場の女性観	<---	子ども数	−0.035	0.454	−0.039	0.259	−0.019	0.725
職場の女性観	<---	末子年齢	−0.010	0.834	0.002	0.954	0.038	0.496
職場の女性観	<---	本人の学歴	0.007	0.887	0.073	0.056	0.009	0.873
職場の女性観	<---	配偶者の収入	0.106	*	−0.060	0.082	0.059	0.285
職場の女性観	<---	配偶者の学歴	−0.055	0.290	−0.056	0.144	−0.127	*
家庭における性別分業観	<---	本人の就業状況	−0.082	0.080	0.018	0.579	0.072	0.201
家庭における性別分業観	<---	本人の収入	0.136	**	0.151	***	0.022	0.696
家庭における性別分業観	<---	子ども数	−0.029	0.542	0.053	0.102	0.033	0.535
家庭における性別分業観	<---	末子年齢	−0.010	0.831	0.064	0.052	0.044	0.415
家庭における性別分業観	<---	本人の学歴	0.052	0.329	0.057	0.116	−0.066	0.245
家庭における性別分業観	<---	配偶者の収入	−0.046	0.345	−0.281	***	−0.207	***
家庭における性別分業観	<---	配偶者の学歴	−0.073	0.169	−0.076	*	−0.033	0.558
家事の実施頻度	<---	仕事での競争意識	−0.042	0.381	0.011	0.765	0.078	0.189
家事の実施頻度	<---	職場の女性観	0.338	***	0.047	0.315	0.118	0.161
家事の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	−0.107	0.142	−0.198	***	−0.327	***
家事の実施頻度	<---	本人の就業状況	0.023	0.607	−0.040	0.242	−0.085	0.144
家事の実施頻度	<---	本人の収入	−0.025	0.609	−0.084	*	−0.163	**
家事の実施頻度	<---	子ども数	−0.123	**	−0.027	0.423	0.068	0.214
家事の実施頻度	<---	末子年齢	−0.118	**	−0.102	**	−0.010	0.862
家事の実施頻度	<---	本人の学歴	0.061	0.229	−0.015	0.687	0.082	0.162
家事の実施頻度	<---	配偶者の収入	0.252	***	0.176	***	0.095	0.103
家事の実施頻度	<---	配偶者の学歴	0.014	0.775	0.096	*	0.053	0.362
育児の実施頻度	<---	本人の就業状況	−0.007	0.872	−0.009	0.795	0.032	0.555
育児の実施頻度	<---	本人の収入	−0.009	0.846	−0.081	*	0.072	0.194
育児の実施頻度	<---	子ども数	−0.111	*	0.051	0.123	−0.021	0.680
育児の実施頻度	<---	末子年齢	−0.081	0.080	0.227	***	0.057	0.271
育児の実施頻度	<---	本人の学歴	−0.116	*	0.005	0.894	0.016	0.764
育児の実施頻度	<---	配偶者の収入	0.126	*	0.090	*	−0.003	0.956
育児の実施頻度	<---	配偶者の学歴	−0.028	0.586	0.020	0.581	0.046	0.402
育児の実施頻度	<---	仕事での競争意識	0.131	**	−0.072	*	−0.005	0.929
育児の実施頻度	<---	職場の女性観	0.027	0.704	−0.003	0.951	0.015	0.845
育児の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	−0.177	*	−0.104	*	−0.149	0.055

表 30-2　既婚子どもあり・年代別の分析結果②

			20･30代		40･50代		60代	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事で業績をあげ評価されたい	<---	仕事での競争意識	0.814		0.830		0.801	
仕事では競争に勝ちたい	<---	仕事での競争意識	0.914	***	0.928	***	0.920	***
男同士では、自分と相手との上下関係を意識している	<---	仕事での競争意識	0.459	***	0.571	***	0.515	***
男は外で働き、女性は家庭を守るべきである	<---	家庭における性別分業観	0.772		0.722		0.730	
男は妻子を養うべきである	<---	家庭における性別分業観	0.499	***	0.640	***	0.758	***
子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ	<---	家庭における性別分業観	0.708	***	0.752	***	0.715	***
家事や子どもの世話は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.731	***	0.790	***	0.777	***
高齢者介護は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.628	***	0.564	***	0.540	***
掃除(トイレ)	<---	家事の実施頻度	0.678		0.595		0.555	
掃除(風呂)	<---	家事の実施頻度	0.588	***	0.530	***	0.461	***
掃除(部屋)	<---	家事の実施頻度	0.686	***	0.652	***	0.592	***
洗濯(たたむ)	<---	家事の実施頻度	0.712	***	0.682	***	0.718	***
洗濯(洗濯機に入れる・干す)	<---	家事の実施頻度	0.655	***	0.675	***	0.591	***
食料品や日用品の買い物	<---	家事の実施頻度	0.602	***	0.633	***	0.515	***
食事のあとかたづけ	<---	家事の実施頻度	0.582	***	0.588	***	0.531	***
食事の世話	<---	家事の実施頻度	0.586	***	0.620	***	0.503	***
勉強や習い事の面倒をみる	<---	育児の実施頻度	0.437		0.648		0.829	
保育園・幼稚園、学校・塾などの送り迎え	<---	育児の実施頻度	0.440	***	0.610	***	0.794	***
会話をする	<---	育児の実施頻度	0.551	***	0.303	***	0.374	***
一緒に遊ぶ	<---	育児の実施頻度	0.728	***	0.619	***	0.724	***
オムツやトイレの世話をする	<---	育児の実施頻度	0.673	***	0.645	***	0.908	***
一緒にお風呂に入る	<---	育児の実施頻度	0.687	***	0.721	***	0.825	***
着替えや身支度の世話をする	<---	育児の実施頻度	0.735	***	0.734	***	0.910	***
一緒に食事をとる	<---	育児の実施頻度	0.638	***	0.401	***	0.347	***
食事の世話をする	<---	育児の実施頻度	0.701	***	0.647	***	0.833	***
できれば女性の上司は持ちたくない	<---	職場の女性観	0.679	***	0.649	***	0.643	***
自分の意見をはっきり言う女性はつい敬遠してしまう	<---	職場の女性観	0.634	***	0.618	***	0.684	***
女性には重要な仕事はまかせられない	<---	職場の女性観	0.791		0.753		0.750	
職場の中で女性は有能なパートナーにはなりえない	<---	職場の女性観	0.785	***	0.765	***	0.639	***
女性は家庭のことをきちんとしてから仕事にでるべきだ	<---	職場の女性観	0.697	***	0.659	***	0.603	***
***p<.000, **p<.01, *p<.05.								
サンプルサイズ			550		1037		411	
χ二乗値			1509.36 ***		1854.03 ***		1128.746 ***	
GFI			0.862		0.909		0.874	
AGFI			0.831		0.888		0.845	
RMSEA			0.055		0.046		0.049	

5.　既婚子どもなし・年代別の結果

既婚子どもありと同様に、既婚子どもなし男性を対象として、図 7 のモデルにもとづき年代別に分析を実施した。以下に各年代の結果を示すが、分析結果の詳細およびモデルの適合度は表 31-1 および表 31-2 に示す。

(1) 20･30 代(N=176)

① 潜在変数間の関係：「職場の女性観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」は増加する(.300)。

② 「本人が就業している人」は「仕事での競争意識」が高い(.171)。

③ 「配偶者の収入」が多いほど「家事の実施頻度」は増加する(.395)。

(2) 40･50 代(N=215)

① 潜在変数間で有意な関係は確認できなかった。

② 「仕事での競争意識」に対しては、「本人が就業している人」(.180)、「本人の年収」が多いほど高まるが(.217)、「配偶者の年収」が多いほど低下する(-.153)。

③ 「職場の女性観」については、「本人が就業している人」(.160)、「本人の年収」が多いほど伝統的であったが(.162)、「配偶者の年収」が多いほど平等的になっていた(-.135)。

④ 「家庭における性別役割分業観」は、「本人の年収」が多いほど伝統的だが(.203)、「本人の学歴」が高いほど(-.145)、「配偶者の年収」が多いほど平等的であった(-.312)。

⑤ 「家事の実施頻度」は「本人の年収」が多いほど減っていた(-.199)。

(3) 60 代(N=64)

サンプルサイズが小さいため、分析結果の解釈は慎重に行う必要がある。

① 潜在変数間の関係：「家庭における性別役割分業観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」は低下する(-.322)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人が就業している人」(.288)、「配偶者の年収」が多いほど高く(.374)、「本人の年収」が多いほど低下する(-.319)。

表 31-1　既婚子どもなし・年代別の分析結果①

			20･30代		40･50代		60代	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事での競争意識	<---	本人の就業状況	0.171	*	0.180	*	0.288	*
仕事での競争意識	<---	本人の収入	0.125	0.202	0.217	**	-0.319	*
仕事での競争意識	<---	本人の学歴	0.012	0.890	0.140	0.064	-0.101	0.481
仕事での競争意識	<---	配偶者の収入	-0.005	0.963	-0.153	*	0.374	**
仕事での競争意識	<---	配偶者の学歴	0.037	0.669	-0.100	0.189	0.004	0.975
職場の女性観	<---	本人の就業状況	0.050	0.521	0.160	*	0.135	0.331
職場の女性観	<---	本人の収入	0.087	0.361	0.162	*	-0.068	0.651
職場の女性観	<---	本人の学歴	-0.034	0.685	-0.057	0.435	-0.099	0.521
職場の女性観	<---	配偶者の収入	0.013	0.888	-0.135	*	0.020	0.889
職場の女性観	<---	配偶者の学歴	0.008	0.929	-0.049	0.504	-0.138	0.381
家庭における性別分業観	<---	本人の就業状況	0.134	0.098	0.112	0.097	0.128	0.323
家庭における性別分業観	<---	本人の収入	0.126	0.199	0.203	**	0.015	0.914
家庭における性別分業観	<---	本人の学歴	-0.042	0.629	-0.145	*	0.057	0.693
家庭における性別分業観	<---	配偶者の収入	-0.142	0.151	-0.312	***	-0.076	0.576
家庭における性別分業観	<---	配偶者の学歴	-0.008	0.929	-0.113	0.120	-0.194	0.191
家事の実施頻度	<---	仕事での競争意識	0.124	0.118	-0.033	0.702	-0.136	0.326
家事の実施頻度	<---	職場の女性観	0.300	**	-0.107	0.237	-0.143	0.344
家事の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	-0.112	0.273	-0.097	0.319	-0.322	*
家事の実施頻度	<---	本人の就業状況	-0.103	0.168	-0.082	0.306	0.199	0.150
家事の実施頻度	<---	本人の収入	-0.108	0.229	-0.199	*	-0.295	0.056
家事の実施頻度	<---	本人の学歴	-0.040	0.605	0.082	0.331	-0.027	0.854
家事の実施頻度	<---	配偶者の収入	0.395	***	0.078	0.345	0.279	0.065
家事の実施頻度	<---	配偶者の学歴	0.074	0.351	0.123	0.144	0.182	0.221

表 31-2　既婚子どもなし・年代別の分析結果②

			20･30代		40･50代		60代	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事で業績をあげ評価されたい	<---	仕事での競争意識	0.842		0.853		0.869	
仕事では競争に勝ちたい	<---	仕事での競争意識	0.889	***	0.901	***	0.956	***
男同士では、自分と相手との上下関係を意識している	<---	仕事での競争意識	0.537	***	0.550	***	0.563	***
できれば女性の上司は持ちたくない	<---	職場の女性観	0.641		0.674		0.692	
自分の意見をはっきり言う女性はつい敬遠してしまう	<---	職場の女性観	0.667	***	0.624	***	0.524	***
女性には重要な仕事はまかせられない	<---	職場の女性観	0.886	***	0.870	***	0.828	***
職場の中で女性は有能なパートナーにはなりえない	<---	職場の女性観	0.792	***	0.878	***	0.844	***
女性は家庭のことをきちんとしてから仕事にでるべきだ	<---	職場の女性観	0.693	***	0.646	***	0.580	***
男は外で働き、女性は家庭を守るべきである	<---	家庭における性別分業観	0.660		0.757		0.679	
男は妻子を養うべきである	<---	家庭における性別分業観	0.744	***	0.695	***	0.511	***
子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ	<---	家庭における性別分業観	0.774	***	0.792	***	0.807	***
家事や子どもの世話は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.780	***	0.803	***	0.862	***
高齢者介護は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.637	***	0.700	***	0.558	***
掃除(トイレ)	<---	家事の実施頻度	0.855		0.579		0.610	
掃除(風呂)	<---	家事の実施頻度	0.613	***	0.594	***	0.398	0.006
掃除(部屋)	<---	家事の実施頻度	0.872	***	0.548	***	0.465	***
洗濯(たたむ)	<---	家事の実施頻度	0.639	***	0.591	***	0.673	***
洗濯(洗濯機に入れる・干す)	<---	家事の実施頻度	0.598	***	0.667	***	0.580	***
食料品や日用品の買い物	<---	家事の実施頻度	0.653	***	0.571	***	0.720	***
食事のあとかたづけ	<---	家事の実施頻度	0.395	***	0.595	***	0.787	***
食事の世話	<---	家事の実施頻度	0.568	***	0.542	***	0.782	***

***p<.000, **p<.01, *p<.05.

サンプルサイズ	176	215	64
χ 二乗値	405.93 ***	381.23 ***	405.75 ***
GFI	0.856	0.992	0.702
AGFI	0.810	0.844	0.607
RMSEA	0.055	0.045	0.091

6.　独身子どもなし・年代別の結果

図 8 の分析モデルについて、年代別の分析結果を示す。分析結果の詳細およびモデルの適合度は表 32 を参照されたい。

(1) 20･30 代(N=1440)

① 潜在変数間の関係：「仕事での競争意識」が高いほど「家事の実施頻度」が増加する(.278)。

② 「仕事での競争意識」に対しては、「本人が就業している人」(.071)、「本人の収入」が多いほど(.065)、「本人の学歴」が高いほど上昇していた(.144)。

③ 「本人の年収」が多いほど「家庭における性別役割分業観」は伝統的になる(.118)。

④ 「本人の年収」が多いほど「職場の女性観」が伝統的になる(.189)。

⑤ 「本人の年収」が多いほど「家事の実施頻度」は増加する(.073)。

(2) 40･50 代(N=854)

① 潜在変数間の関係：「仕事での競争意識」が強いほど「家事の実施頻度」は増加するが(.150)、「家庭における性別役割分業観」は「家事の実施頻度」を低下させていた(-.122)。

② 「本人が就業している人」(.221)、「本人の学歴」が高いほど「仕事での競争意識」は高まっていた(.079)。

(3) 60 代(N=82)

サンプルサイズが小さいことから、結果の解釈は慎重に行う必要がある。

① 「本人が就業している人」は「家事の実施頻度」が増加する(.265)。

表 32　独身子どもなし・年代別の分析結果

			20･30代		40･50代		60代	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事での競争意識	<---	本人の就業状況	0.071	*	0.221	***	0.132	0.249
仕事での競争意識	<---	本人の収入	0.065	*	0.038	0.312	0.149	0.203
仕事での競争意識	<---	本人の学歴	0.144	***	0.079	*	0.087	0.434
職場の女性観	<---	本人の収入	0.189	***	0.024	0.543	0.148	0.253
職場の女性観	<---	本人の学歴	−0.007	0.789	−0.060	0.103	−0.031	0.802
職場の女性観	<---	本人の就業状況	0.006	0.840	0.030	0.451	0.058	0.648
家庭における性別分業観	<---	本人の就業状況	0.050	0.096	−0.009	0.814	0.120	0.305
家庭における性別分業観	<---	本人の収入	0.118	***	−0.036	0.347	0.093	0.435
家庭における性別分業観	<---	本人の学歴	0.033	0.238	−0.028	0.429	−0.045	0.688
家事の実施頻度	<---	仕事での競争意識	0.278	***	0.150	***	−0.043	0.699
家事の実施頻度	<---	職場の女性観	0.069	0.121	0.073	0.128	0.138	0.391
家事の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	−0.033	0.461	−0.122	*	−0.240	0.149
家事の実施頻度	<---	本人の就業状況	0.044	0.141	0.031	0.449	0.265	*
家事の実施頻度	<---	本人の収入	0.073	*	−0.035	0.398	−0.255	0.050
家事の実施頻度	<---	本人の学歴	0.008	0.764	−0.044	0.254	0.096	0.381
仕事で業績をあげ評価されたい	<---	仕事での競争意識	0.861		0.861		0.941	
仕事では競争に勝ちたい	<---	仕事での競争意識	0.886	***	0.878	***	0.940	***
男同士では、自分と相手との上下関係を意識している	<---	仕事での競争意識	0.567	***	0.625	***	0.660	***
できれば女性の上司は持ちたくない	<---	職場の女性観	0.731		0.706		0.734	
自分の意見をはっきり言う女性はつい敬遠してしまう	<---	職場の女性観	0.632	***	0.581	***	0.656	***
女性には重要な仕事はまかせられない	<---	職場の女性観	0.863	***	0.877	***	0.859	***
職場の中で女性は有能なパートナーにはなりえない	<---	職場の女性観	0.831	***	0.834	***	0.684	***
女性は家庭のことをきちんとしてから仕事にでるべきだ	<---	職場の女性観	0.717	***	0.656	***	0.499	***
男は外で働き、女性は家庭を守るべきである	<---	家庭における性別分業観	0.793		0.746		0.635	
男は妻子を養うべきである	<---	家庭における性別分業観	0.552	***	0.583	***	0.729	***
子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ	<---	家庭における性別分業観	0.733	***	0.778	***	0.857	***
家事や子どもの世話は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.776	***	0.876	***	0.847	***
高齢者介護は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.740	***	0.698	***	0.588	***
掃除(トイレ)	<---	家事の実施頻度	0.740		0.652		0.481	
掃除(風呂)	<---	家事の実施頻度	0.657	***	0.587	***	0.548	***
掃除(部屋)	<---	家事の実施頻度	0.749	***	0.661	***	0.668	***
洗濯(たたむ)	<---	家事の実施頻度	0.816	***	0.804	***	0.985	***
洗濯(洗濯機に入れる・干す)	<---	家事の実施頻度	0.825	***	0.806	***	0.981	***
食料品や日用品の買い物	<---	家事の実施頻度	0.735	***	0.660	***	0.553	***
食事のあとかたづけ	<---	家事の実施頻度	0.563	***	0.566	***	0.382	0.003
食事の世話	<---	家事の実施頻度	0.586	***	0.607	***	0.413	0.002

***p<.000, **p<.01, *p<.05.

サンプルサイズ	1440	854	82
χ 二乗値	995.20 ***	649.87 ***	361.53 ***
GFI	0.945	0.942	0.749
AGFI	0.928	0.923	0.667
RMSEA	0.048	0.047	0.085

7.　既婚子どもあり・地域別の結果

図 6 の分析モデルにもとづき、既婚子どもありについて地域別に分析を実施した。以下に各地域の分析結果を示す。結果の詳細およびモデルの適合度は表 33-1 および表 33-2 を参照されたい。

(1) 東京(N=332)

① 潜在変数間の関係：「職場の女性観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」が上昇することが確認できた(.229)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人の年収」が多いほど(.192)、「末子年齢」が高いほど上昇するが(.331)、「本人の年齢」が上昇するほど低下していた(-.482)。

③ 「職場の女性観」は、「本人の年収」が多いほど(-.124)、「本人の年齢」が高いほど平等的になっていたが(-.368)、「末子年齢」が高いほど伝統的になる(.310)。

④ 「家庭における性別役割分業観」は、「子ども数」が多いほど(.199)、「末子年齢」が高いほど伝統的になるが(.381)、「本人の年齢」が高いほど(-.375)、「配偶者の年収」が多いほど平等的であった(-.219)。

⑤ 「家事の実施頻度」は、「子ども数」が多いほど減少し(-.157)、「配偶者の年収」が多いほど増加していた(.295)。

⑥ 「育児の実施頻度」は「配偶者の年収」が多いほど上昇する(.149)。

(2) 北陸・東北(N=830)

① 潜在変数間の関係：「職場の女性観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」が上昇し(.174)、「家庭における性別役割分業観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」は低下する(-.197)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人の年収」が多いほど上昇するが(.121)、「本人の年齢」が上昇するほど(-.247)、「配偶者の学歴」が高いほど低下していた(-.097)。

③ 「職場の女性観」に対しては、「配偶者の学歴」が高いほど平等的であった(-.111)　。

④ 「家庭における性別役割分業観」は、「本人の年収」が多いほど(.124)、「子ども数」が多いほど伝統的になるが(.077)、「配偶者の収入」が多いほど平等的であった(-.174)。

⑤ 「家事の実施頻度」は、「本人の年収」が多いほど低下するが(-.110)、「本人の学歴」が高いほど(.104)、「配偶者の年収」が多いほど増加していた(.144)。

⑥ 「育児の実施頻度」は「末子年齢」が高いほど有意に増加していた(.208)。

(3) 九州・沖縄(N=836)

① 潜在変数間の関係：「職場の女性観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」が上昇し(.116)、「家庭における性別役割分業観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」(-.229)も「育児の実施頻度」も低下する(-.174)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人の年収」が多いほど上昇するが(.146)、「本人の年齢」

が上昇するほど低下していた(-.398)。

③　「職場の女性観」に対しては、「本人の学歴」が高いほど伝統的であった(.109)。

④　「家庭における性別役割分業観」は、「本人の年収」が多いほど(.143)、「末子年齢」が高いほど伝統的になるが(.157)、「配偶者の年収」が多いほど平等的であった(-.212)。

⑤　「家事の実施頻度」は、「本人が就業している人」(-.116)、「本人の年齢」が上昇するほど低下するが(-.204)、「配偶者の年収」が高いほど増加していた(.197)。

⑥　「育児の実施頻度」は「配偶者の学歴」が高いほど多くなる(.095)。

表 33-1　既婚子どもあり・地域別の分析結果①

			東京		北陸・東北		九州・沖縄	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事での競争意識	<---	本人の就業状況	−0.029	0.632	0.017	0.681	−0.047	0.225
仕事での競争意識	<---	本人の収入	0.192	**	0.121	**	0.146	***
仕事での競争意識	<---	子ども数	−0.104	0.088	0.049	0.203	0.016	0.655
仕事での競争意識	<---	末子年齢	0.331	*	0.091	0.293	0.143	0.061
仕事での競争意識	<---	本人年齢	−0.482	***	−0.247	**	−0.398	***
仕事での競争意識	<---	本人の学歴	0.042	0.489	0.075	0.059	0.023	0.562
仕事での競争意識	<---	配偶者の収入	−0.071	0.214	−0.030	0.417	0.015	0.673
仕事での競争意識	<---	配偶者の学歴	−0.008	0.896	−0.097	*	−0.038	0.328
職場の女性観	<---	本人の就業状況	0.038	0.540	0.003	0.942	−0.007	0.870
職場の女性観	<---	本人の収入	−0.124	*	0.044	0.280	0.046	0.257
職場の女性観	<---	子ども数	0.087	0.171	−0.008	0.839	−0.041	0.299
職場の女性観	<---	末子年齢	0.310	*	0.011	0.902	0.053	0.519
職場の女性観	<---	本人年齢	−0.368	*	0.044	0.632	−0.003	0.967
職場の女性観	<---	本人の学歴	−0.094	0.142	0.029	0.494	0.109	**
職場の女性観	<---	配偶者の収入	−0.002	0.973	−0.024	0.541	0.030	0.438
職場の女性観	<---	配偶者の学歴	0.039	0.566	−0.111	**	−0.068	0.105
家庭における性別分業観	<---	本人の就業状況	−0.031	0.614	0.027	0.511	−0.018	0.651
家庭における性別分業観	<---	本人の収入	0.051	0.407	0.124	**	0.143	***
家庭における性別分業観	<---	子ども数	0.199	**	0.077	*	−0.030	0.431
家庭における性別分業観	<---	末子年齢	0.381	**	0.059	0.494	0.157	*
家庭における性別分業観	<---	本人年齢	−0.375	**	0.161	0.068	−0.020	0.801
家庭における性別分業観	<---	本人の学歴	−0.060	0.344	0.027	0.493	0.066	0.102
家庭における性別分業観	<---	配偶者の収入	−0.219	***	−0.174	***	−0.212	***
家庭における性別分業観	<---	配偶者の学歴	−0.040	0.545	−0.073	0.072	−0.050	0.217
家事の実施頻度	<---	仕事での競争意識	0.006	0.916	−0.011	0.787	−0.006	0.879
家事の実施頻度	<---	職場の女性観	0.229	*	0.174	**	0.116	*
家事の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	−0.015	0.874	−0.197	***	−0.229	***
家事の実施頻度	<---	本人の就業状況	0.000	0.997	−0.055	0.190	−0.116	**
家事の実施頻度	<---	本人の収入	−0.085	0.159	−0.110	**	−0.071	0.076
家事の実施頻度	<---	子ども数	−0.157	*	−0.003	0.936	−0.061	0.113
家事の実施頻度	<---	末子年齢	−0.002	0.987	−0.151	0.081	0.013	0.868
家事の実施頻度	<---	本人年齢	−0.158	0.247	−0.094	0.292	−0.204	*
家事の実施頻度	<---	本人の学歴	−0.075	0.207	0.104	*	0.006	0.890
家事の実施頻度	<---	配偶者の収入	0.295	***	0.144	***	0.197	***
家事の実施頻度	<---	配偶者の学歴	0.071	0.260	0.063	0.123	0.039	0.342
育児の実施頻度	<---	本人の就業状況	0.097	0.121	0.027	0.511	−0.014	0.738
育児の実施頻度	<---	本人の収入	0.008	0.904	−0.064	0.102	0.027	0.501
育児の実施頻度	<---	子ども数	−0.053	0.414	−0.031	0.429	−0.018	0.632
育児の実施頻度	<---	末子年齢	0.054	0.699	0.208	*	0.114	0.161
育児の実施頻度	<---	本人年齢	0.113	0.436	−0.030	0.734	−0.031	0.707
育児の実施頻度	<---	本人の学歴	0.014	0.825	0.004	0.927	−0.043	0.293
育児の実施頻度	<---	配偶者の収入	0.149	*	0.071	0.062	0.075	0.056
育児の実施頻度	<---	配偶者の学歴	−0.029	0.659	−0.051	0.218	0.095	*
育児の実施頻度	<---	仕事での競争意識	−0.005	0.935	0.047	0.237	−0.028	0.490
育児の実施頻度	<---	職場の女性観	0.138	0.146	−0.077	0.163	0.034	0.514
育児の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	−0.168	0.096	−0.101	0.082	−0.174	**

表 33-2　既婚子どもあり・地域別の分析結果②

			東京		北陸・東北		九州・沖縄	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事で業績をあげ評価されたい	<---	仕事での競争意識	0.853		0.869		0.784	
仕事では競争に勝ちたい	<---	仕事での競争意識	0.910	***	0.896	***	0.942	***
男同士では、自分と相手との上下関係を意識している	<---	仕事での競争意識	0.525	***	0.538	***	0.519	***
男は外で働き、女性は家庭を守るべきである	<---	家庭における性別分業観	0.728		0.710		0.738	
男は妻子を養うべきである	<---	家庭における性別分業観	0.633	***	0.622	***	0.592	***
子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ	<---	家庭における性別分業観	0.755	***	0.729	***	0.748	***
家事や子どもの世話は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.780	***	0.783	***	0.785	***
高齢者介護は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.595	***	0.597	***	0.595	***
掃除(トイレ)	<---	家事の実施頻度	0.772		0.583		0.637	
掃除(風呂)	<---	家事の実施頻度	0.636	***	0.545	***	0.560	***
掃除(部屋)	<---	家事の実施頻度	0.695	***	0.640	***	0.684	***
洗濯(たたむ)	<---	家事の実施頻度	0.751	***	0.744	***	0.672	***
洗濯(洗濯機に入れる・干す)	<---	家事の実施頻度	0.602	***	0.724	***	0.646	***
食料品や日用品の買い物	<---	家事の実施頻度	0.645	***	0.555	***	0.558	***
食事のあとかたづけ	<---	家事の実施頻度	0.508	***	0.584	***	0.572	***
食事の世話	<---	家事の実施頻度	0.590	***	0.577	***	0.552	***
勉強や習い事の面倒をみる	<---	育児の実施頻度	0.646		0.609		0.653	
保育園・幼稚園、学校・塾などの送り迎え	<---	育児の実施頻度	0.679	***	0.579	***	0.601	***
会話をする	<---	育児の実施頻度	0.367	***	0.371	***	0.401	***
一緒に遊ぶ	<---	育児の実施頻度	0.686	***	0.657	***	0.649	***
オムツやトイレの世話をする	<---	育児の実施頻度	0.763	***	0.696	***	0.698	***
一緒にお風呂に入る	<---	育児の実施頻度	0.751	***	0.712	***	0.747	***
着替えや身支度の世話をする	<---	育児の実施頻度	0.844	***	0.808	***	0.724	***
一緒に食事をとる	<---	育児の実施頻度	0.451	***	0.409	***	0.488	***
食事の世話をする	<---	育児の実施頻度	0.667	***	0.749	***	0.668	***
できれば女性の上司は持ちたくない	<---	職場の女性観	0.634	***	0.679	***	0.643	***
自分の意見をはっきり言う女性はつい敬遠してしまう	<---	職場の女性観	0.666	***	0.640	***	0.598	***
女性には重要な仕事はまかせられない	<---	職場の女性観	0.828		0.739		0.763	
職場の中で女性は有能なパートナーにはなりえない	<---	職場の女性観	0.800	***	0.708	***	0.762	***
女性は家庭のことをきちんとしてから仕事にでるべきだ	<---	職場の女性観	0.769	***	0.627	***	0.662	***
***p<.000, **p<.01, *p<.05.								
サンプルサイズ			332		830		836	
χ二乗値			1250.95 ***		1755.61 ***		1776.92 ***	
GFI			0.834		0.899		0.897	
AGFI			0.794		0.875		0.892	
RMSEA			0.053		0.048		0.049	

8.　既婚子どもなし・地域別の結果

既婚子どもありと同様に、図 7 のモデルにもとづき地域別に分析をした。以下に各地域の分析結果を示す。結果およびモデルの適合度は表 34-1 および表 34-2 に提示した。

(1) 東京(N=110)

① 潜在変数間の関係:「仕事での競争意識」が高いほど「家事の実施頻度」が増える(.242)。

② 「仕事での競争意識」は、「本人が就業している人」(.242)、「本人の学歴」が高いほど上昇していた(.317)。

③ 「職場の女性観」は、「配偶者の年収」が多いほど平等的であった(-.222)。

④ 「家庭における性別役割分業観」は「本人の年齢」が高いほど伝統的になったが(.240)、「配偶者の年収」が多いほど平等的であった(-.384)。

⑤ 「家事の実施頻度」を規定する要因は見出されなかった。

(2) 北陸・東北(N=142)

① 潜在変数間の関係：有意なものは確認できなかった。

② 「仕事での競争意識」については、「本人が就業している人」が高い(.321)。

③ 「職場の女性観」は「本人が就業している人」において伝統的になる(.226)。

④ 「本人の収入」が多いほど「家庭における性別役割分業観」は伝統的であった(.173)。

⑤ 「家事の実施頻度」は、「本人の年収」が多いほど低下するが(-.287)、「配偶者の年収」が多いほど(.254)、「配偶者の学歴」が高いほど増加していた(.193)。

(3) 九州・沖縄(N＝203)

① 潜在変数間の関係：有意なものは確認できなかった。

② 「仕事での競争意識」は「本人の年齢」が高いほど低下する(-.166)。

③ 「職場の女性観」は「本人の年収」が多いほど伝統的になる(.183)。

④ 「配偶者の年収」が多いほど「家庭における性別役割分業観」は平等的であった(-.196)。

⑤ 「配偶者の年収」が多いほど「家事の実施頻度」が増加する(.382)。

表 34-1　既婚子どもなし・地域別の分析結果①

			東京		北陸・東北		九州・沖縄	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事での競争意識	<---	本人の就業状況	0.242	*	0.321	***	0.065	0.384
仕事での競争意識	<---	本人の収入	0.097	0.339	0.090	0.324	0.141	0.103
仕事での競争意識	<---	本人年齢	−0.135	0.178	−0.030	0.742	−0.166	*
仕事での競争意識	<---	本人の学歴	0.317	**	−0.046	0.614	0.020	0.801
仕事での競争意識	<---	配偶者の収入	−0.010	0.912	0.019	0.830	−0.094	0.269
仕事での競争意識	<---	配偶者の学歴	−0.041	0.695	−0.074	0.429	0.004	0.964
職場の女性観	<---	本人の収入	0.067	0.496	0.017	0.848	0.183	*
職場の女性観	<---	本人年齢	0.007	0.944	0.133	0.149	−0.121	0.096
職場の女性観	<---	本人の学歴	0.047	0.628	−0.039	0.667	−0.079	0.318
職場の女性観	<---	配偶者の収入	−0.222	*	−0.015	0.864	−0.016	0.851
職場の女性観	<---	配偶者の学歴	0.078	0.453	−0.026	0.781	−0.125	0.119
職場の女性観	<---	本人の就業状況	−0.002	0.981	0.226	*	0.035	0.630
家庭における性別分業観	<---	本人の就業状況	0.110	0.248	0.118	0.185	0.064	0.388
家庭における性別分業観	<---	本人の収入	0.167	0.092	0.173	*	0.099	0.248
家庭における性別分業観	<---	本人年齢	0.240	*	0.133	0.128	−0.005	0.942
家庭における性別分業観	<---	本人の学歴	0.045	0.643	−0.088	0.311	−0.111	0.171
家庭における性別分業観	<---	配偶者の収入	−0.384	***	−0.081	0.343	−0.196	*
家庭における性別分業観	<---	配偶者の学歴	−0.011	0.914	−0.093	0.295	−0.102	0.212
家事の実施頻度	<---	仕事での競争意識	0.242	*	0.118	0.226	0.003	0.968
家事の実施頻度	<---	職場の女性観	0.139	0.272	−0.112	0.247	0.088	0.398
家事の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	−0.210	0.164	−0.182	0.075	−0.059	0.571
家事の実施頻度	<---	本人の就業状況	−0.183	0.095	0.012	0.908	−0.045	0.531
家事の実施頻度	<---	本人の収入	−0.138	0.206	−0.287	**	−0.057	0.500
家事の実施頻度	<---	本人年齢	−0.173	0.123	−0.124	0.184	−0.102	0.166
家事の実施頻度	<---	本人の学歴	0.083	0.459	0.104	0.264	−0.068	0.383
家事の実施頻度	<---	配偶者の収入	−0.007	0.948	0.254	**	0.382	***
家事の実施頻度	<---	配偶者の学歴	0.138	0.220	0.193	*	0.012	0.875

表 34-2　既婚子どもなし・地域別の分析結果②

			東京		北陸・東北		九州・沖縄	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事で業績をあげ評価されたい	<---	仕事での競争意識	0.844		0.917		0.854	
仕事では競争に勝ちたい	<---	仕事での競争意識	0.919	***	0.829	***	0.915	***
男同士では、自分と相手との上下関係を意識している	<---	仕事での競争意識	0.583	***	0.582	***	0.530	***
できれば女性の上司は持ちたくない	<---	職場の女性観	0.665		0.640		0.647	
自分の意見をはっきり言う女性はつい敬遠してしまう	<---	職場の女性観	0.663	***	0.631	***	0.607	***
女性には重要な仕事はまかせられない	<---	職場の女性観	0.955	***	0.864	***	0.862	***
職場の中で女性は有能なパートナーにはなりえない	<---	職場の女性観	0.775	***	0.810	***	0.853	***
女性は家庭のことをきちんとしてから仕事にでるべきだ	<---	職場の女性観	0.600	***	0.575	***	0.703	***
男は外で働き、女性は家庭を守るべきである	<---	家庭における性別分業観	0.671		0.723		0.707	
男は妻子を養うべきである	<---	家庭における性別分業観	0.691	***	0.669	***	0.704	***
子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ	<---	家庭における性別分業観	0.814	***	0.751	***	0.808	***
家事や子どもの世話は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.858	***	0.741	***	0.808	***
高齢者介護は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.638	***	0.599	***	0.698	***
掃除(トイレ)	<---	家事の実施頻度	0.786		0.624		0.813	
掃除(風呂)	<---	家事の実施頻度	0.588	***	0.569	***	0.720	***
掃除(部屋)	<---	家事の実施頻度	0.762	***	0.571	***	0.763	***
洗濯(たたむ)	<---	家事の実施頻度	0.616	***	0.756	***	0.639	***
洗濯(洗濯機に入れる・干す)	<---	家事の実施頻度	0.622	***	0.706	***	0.689	***
食料品や日用品の買い物	<---	家事の実施頻度	0.577	***	0.452	***	0.645	***
食事のあとかたづけ	<---	家事の実施頻度	0.523	***	0.454	***	0.555	***
食事の世話	<---	家事の実施頻度	0.653	***	0.361	***	0.599	***
***p<.000, **p<.01, *p<.05.								
サンプルサイズ			110		142		203	
χ二乗値			408.72 ***		424.81 ***		475.87 ***	
GFI			0.804		0.828		0.855	
AGFI			0.738		0.771		0.807	
RMSEA			0.049		0.047		0.049	

9. 独身子どもなし・地域別の結果

図 8 の分析モデルについて、地域別の結果を示す。結果の詳細とモデルの適合度は表 35 を参照されたい。

(1) 東京(N=535)

① 潜在変数間の関係：「仕事での競争意識」が「家事の実施頻度」を高める(.233)。

② 「仕事での競争意識」は「本人が就業している人」(.113)、「本人の学歴」が高いほど高まっていたが(.114)、「本人の年齢」が上昇すると低下していた(-.228)。

③ 「本人の年収」が多いほど「職場の女性観」は伝統的になる(.183)。

(2) 北陸・東北(N=962)

① 潜在変数間の関係：「仕事での競争意識」は「家事の実施頻度」を上昇させ(.212)、「職場の女性観」が伝統的なほど「家事の実施頻度」は増加していた(.107)。

② 「仕事での競争意識」は「本人の年収」が多いほど(.077)、「本人の学歴」が高いほど上昇するが(.114)、「本人の年齢」が高くなるほど低下していた(-.146)。

③ 「本人の年収」が多いことは「職場の女性観」を伝統的にする(.114)。

(3) 九州・沖縄(N=879)

① 潜在変数間の関係：「仕事での競争意識」は「家事の実施頻度」を上昇させていた(.197)。

② 「本人が就業している人」(.240)、「本人の学歴」が高いほど「仕事での競争意識」は高まっていたが(.083)、「本人の年齢」が高いほど低下していた(-.184)。

③ 「本人の年収」が高いほど「職場の女性観」は伝統的になる(.083)。

④ 「本人の年齢」が上昇するほど「家事の実施頻度」は増加していた(.134)。

表 35　独身子どもなし・地域別の分析結果

			東京		北陸・東北		九州・沖縄	
			推定値	確率	推定値	確率	推定値	確率
仕事での競争意識	<---	本人の就業状況	0.113	*	0.021	0.567	0.240	***
仕事での競争意識	<---	本人の収入	0.088	0.068	0.077	*	0.049	0.184
仕事での競争意識	<---	本人年齢	−0.228	***	−0.146	***	−0.184	***
仕事での競争意識	<---	本人の学歴	0.114	**	0.114	***	0.083	*
職場の女性観	<---	本人の収入	0.183	***	0.114	**	0.083	*
職場の女性観	<---	本人年齢	−0.082	0.077	0.029	0.413	0.009	0.809
職場の女性観	<---	本人の学歴	−0.064	0.158	−0.031	0.368	−0.014	0.697
職場の女性観	<---	本人の就業状況	0.022	0.650	−0.022	0.562	0.070	0.071
家庭における性別分業観	<---	本人の就業状況	−0.001	0.978	0.026	0.473	0.062	0.099
家庭における性別分業観	<---	本人の収入	0.045	0.378	0.043	0.257	0.036	0.342
家庭における性別分業観	<---	本人年齢	−0.035	0.445	0.048	0.168	0.062	0.077
家庭における性別分業観	<---	本人の学歴	−0.009	0.844	0.032	0.351	−0.021	0.541
家事の実施頻度	<---	仕事での競争意識	0.233	***	0.212	***	0.197	***
家事の実施頻度	<---	職場の女性観	0.090	0.212	0.107	*	0.051	0.328
家事の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	−0.052	0.469	−0.075	0.131	−0.046	0.374
家事の実施頻度	<---	本人の就業状況	0.091	0.070	0.040	0.290	0.003	0.933
家事の実施頻度	<---	本人の収入	−0.020	0.708	−0.032	0.404	0.053	0.183
家事の実施頻度	<---	本人年齢	0.056	0.254	−0.005	0.882	0.134	***
家事の実施頻度	<---	本人の学歴	−0.023	0.622	−0.004	0.904	−0.013	0.722
仕事で業績をあげ評価されたい	<---	仕事での競争意識	0.840		0.861		0.880	
仕事では競争に勝ちたい	<---	仕事での競争意識	0.899	***	0.872	***	0.899	***
男同士では、自分と相手との上下関係を意識している	<---	仕事での競争意識	0.559	***	0.571	***	0.622	***
できれば女性の上司は持ちたくない	<---	職場の女性観	0.762		0.679		0.733	
自分の意見をはっきり言う女性はつい敬遠してしまう	<---	職場の女性観	0.663	***	0.566	***	0.637	***
女性には重要な仕事はまかせられない	<---	職場の女性観	0.902	***	0.858	***	0.853	***
職場の中で女性は有能なパートナーにはなりえない	<---	職場の女性観	0.832	***	0.845	***	0.806	***
女性は家庭のことをきちんとしてから仕事にでるべきだ	<---	職場の女性観	0.716	***	0.677	***	0.691	***
男は外で働き、女性は家庭を守るべきである	<---	家庭における性別分業観	0.788		0.733		0.792	
男は妻子を養うべきである	<---	家庭における性別分業観	0.585	***	0.566	***	0.581	***
子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事をもたずに育児に専念すべきだ	<---	家庭における性別分業観	0.787	***	0.728	***	0.760	***
家事や子どもの世話は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.820	***	0.788	***	0.836	***
高齢者介護は女性がするほうがよい	<---	家庭における性別分業観	0.728	***	0.698	***	0.733	***
掃除(トイレ)	<---	家事の実施頻度	0.718		0.720		0.675	
掃除(風呂)	<---	家事の実施頻度	0.698	***	0.626	***	0.597	***
掃除(部屋)	<---	家事の実施頻度	0.735	***	0.723	***	0.698	***
洗濯(たたむ)	<---	家事の実施頻度	0.818	***	0.816	***	0.807	***
洗濯(洗濯機に入れる・干す)	<---	家事の実施頻度	0.827	***	0.816	***	0.813	***
食料品や日用品の買い物	<---	家事の実施頻度	0.632	***	0.706	***	0.729	***
食事のあとかたづけ	<---	家事の実施頻度	0.543	***	0.534	***	0.613	***
食事の世話	<---	家事の実施頻度	0.533	***	0.591	***	0.626	***

***p<.000, **p<.01, *p<.05.

サンプルサイズ	535	962	879
χ 二乗値	672.34 ***	815.92 ***	842.10 ***
GFI	0.910	0.937	0.931
AGFI	0.881	0.917	0.909
RMSEA	0.057	0.045	0.053

V.　分析結果のまとめ

本プロジェクトで収集したデータの特性として、全体的には高学歴で常時雇用の男性が多かったこと、未婚者が半数近くいたことなどがあげられる。これらの傾向はWEB調査というデータ収集法を使った結果であることが推測される。また、年収は東京在住男性が最も多かったが、勤務時間に関しての地域差がなかったことも興味深い。

１．主要変数の比較（記述統計）

記述統計結果は主に以下のようにまとめることができる。

(1) 若年男性のほうが仕事における競争意識が高齢男性よりも高いが、職場における女性観や性別役割分業観は高齢者層と比較すると、より平等的である。

(2) 高齢男性は協調性が若年と比較して高いが、職場の女性観などは伝統的である。

(3) 東京在住男性は協調性が他の地域と比較して高い傾向にある。また、沖縄男性は職場における女性観や性別役割分業観が他の地域と比較して、より平等的である。

(4) 感情表現を頻繁にする傾向は 20 代と東京在住男性により多くみられる傾向である。しかし、孤独感に関しては東北男性が最も頻繁に感じている。

(5) 暴力の加害および被害経験の多い世代は20代である。

(6) 家事に関しては、若年層の参加が高齢者層より頻繁であるが、育児についてはそのような傾向はみられなかった。

2.因果関係の検討（共分散構造分析結果）

主要変数間の因果関係を検討するために行なった共分散構造分析のまとめとして、従属変数を家事頻度とした結果を「既婚子どもあり」「既婚子どもなし」「独身子どもなし」グループに分けてまとめる。また、育児頻度の結果については「既婚子どもあり」を対象とした結果を以下にまとめる（表36)。

(1) 既婚子どもありの男性の家事頻度を促しているのは、平等な性別役割分業観、職場における伝統的な女性観、就業していないこと、年収が低いこと、年齢が低いこと、配偶者の年収と学歴が高いことである。

(2) 既婚子どもなしの男性の場合は、年収が低いこと、年齢が低いこと、配偶者の年収が高いことが家事を促進している。

(3) 独身子どもなしの男性では、仕事での競争意識が高いこと、職場における女性観が伝統的であること、年齢が高いことが家事頻度を高めている。

この比較からみえてくるのは、子どもの有無に関わらず既婚男性グループで共通しているのは、自身の年収が低いこと、年齢が低いこと、配偶者の年収が高いことなどが家事参加へつながっていることである。既婚子どもあり男性と独身男性の場合は、仕事での競争意識や女性観という意識要因が家事参加と関連しているが、この関係は既婚子どもなし男性ではみられなかった。なお、育児頻度については性別役割分業観が平等的であるほど、末子年齢が高いほど、配偶者の収入が高いほど、より頻繁に育児をしていることがわかった。全体的には、ジェンダーイデオロギー的な意識変数と年収などの構造的な変数のどちらとも男

性の家事や育児頻度と関連していることが明らかになった。

表 36　グループ別の分析結果の要約

			既婚子どもあり		既婚子どもなし		独身子どもなし	
仕事での競争意識	<---	本人の就業状況		n.s.	＋	**	＋	***
仕事での競争意識	<---	本人の収入	＋	***	＋	*	＋	**
仕事での競争意識	<---	子ども数		n.s.				
仕事での競争意識	<---	末子年齢	＋	**				
仕事での競争意識	<---	本人年齢	－	***	－	**	－	***
仕事での競争意識	<---	本人の学歴	＋	*		n.s.	＋	***
仕事での競争意識	<---	配偶者の収入		n.s.		n.s.		
仕事での競争意識	<---	配偶者の学歴	－	*		n.s.		
職場の女性観	<---	本人の就業状況		n.s.		n.s.		n.s.
職場の女性観	<---	本人の収入		n.s.	＋	*	＋	***
職場の女性観	<---	子ども数		n.s.				
職場の女性観	<---	末子年齢		n.s.				
職場の女性観	<---	本人年齢		n.s.		n.s.		n.s.
職場の女性観	<---	本人の学歴		n.s.		n.s.		n.s.
職場の女性観	<---	配偶者の収入		n.s.		n.s.		
職場の女性観	<---	配偶者の学歴	－	*		n.s.		
家庭における性別分業観	<---	本人の就業状況		n.s.	＋	*		n.s.
家庭における性別分業観	<---	本人の収入	＋	***	＋	**		n.s.
家庭における性別分業観	<---	子ども数		n.s.				
家庭における性別分業観	<---	末子年齢	＋	**				
家庭における性別分業観	<---	本人年齢		n.s.		n.s.		n.s.
家庭における性別分業観	<---	本人の学歴		n.s.		n.s.		n.s.
家庭における性別分業観	<---	配偶者の収入	－	***	－	***		
家庭における性別分業観	<---	配偶者の学歴	－	*		n.s.		
家事の実施頻度	<---	仕事での競争意識		n.s.		n.s.	＋	***
家事の実施頻度	<---	職場の女性観	＋	***		n.s.	＋	*
家事の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	－	***		n.s.		n.s.
家事の実施頻度	<---	本人の就業状況	－	**		n.s.		n.s.
家事の実施頻度	<---	本人の収入	－	***	－	*		n.s.
家事の実施頻度	<---	子ども数		n.s.				
家事の実施頻度	<---	末子年齢		n.s.				
家事の実施頻度	<---	本人年齢	－	**	－	**	＋	**
家事の実施頻度	<---	本人の学歴		n.s.		n.s.		n.s.
家事の実施頻度	<---	配偶者の収入	＋	***	＋	***		
家事の実施頻度	<---	配偶者の学歴	＋	*		n.s.		
育児の実施頻度	<---	仕事での競争意識		n.s.				
育児の実施頻度	<---	職場の女性観		n.s.				
育児の実施頻度	<---	家庭における性別分業観	－	***				
育児の実施頻度	<---	本人の就業状況		n.s.				
育児の実施頻度	<---	本人の収入		n.s.				
育児の実施頻度	<---	子ども数		n.s.				
育児の実施頻度	<---	末子年齢	＋	**				
育児の実施頻度	<---	本人年齢		n.s.				
育児の実施頻度	<---	本人の学歴		n.s.				
育児の実施頻度	<---	配偶者の収入	＋	***				
育児の実施頻度	<---	配偶者の学歴		n.s.				

注　***p<.000, **p<.01, *p<.05.,n.s.(not significant), ‘網掛’はモデル内に存在しないパス